

別表第 4 施工管理記録様式

目 次

様 式	名 称	頁
	(出来形管理関係)	
1-1 1-2	出来形管理図表(表紙) 品質管理図表(表紙)	182
2	出来形管理図表(図表)	184
2-2	度 数 表	185
3-1	測 定 結 果 表	186
3-2	鋼管溶接測定結果一覧表	187
3-3	鋼管溶接、塗覆装点検表	188
3-4	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表	189
3-5	埋設とう性管たわみ量管理表	190
3-6	鉄筋組立検査結果一覧表	191
4	杭 打 ち 成 績 表	192
	(コンクリート関係)	
5	セメントの密度試験 (JIS R 5201)	193
6-1	セメントの粉末度試験(比表面積試験) (JIS R 5201)	194
6-2	セメントの粉末度試験(網ふるい試験) (JIS R 5201)	195
7	セメントの凝結試験 (JIS R 5201)	196
8	セメントの安定性試験 (JIS R 5201)	197
9	セメントの強さ試験 (JIS R 5201)	198
10	細骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1109)	199
11	粗骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1110)	200
12	細骨材の表面水率試験 (JIS A 1111)	201
13-1	骨材のふるい分け試験(細骨材) (JIS A 1102)	202

様式	名 称	頁
13-2	骨材のふるい分け試験 (粗骨材) (JIS A 1102)	203
14	骨材試験成績一覧表	204
15	コンクリートのスランプ試験およびフレッシュコンクリートの空気量の圧力による試験(空気室圧力方法) (JIS A 1101) (JIS A 1128)	205
16	コンクリートの圧縮強度試験 (JIS A 1108)	206
17	コンクリートの曲げ強度試験 (JIS A 1106)	207
18	フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験 (JIS A 5308) (JIS A 1144)	208
19	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (化学法) (JIS A 5308) (JIS A 1145)	209
20	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法) (JIS A 5308) (JIS A 1146)	210
21	鉄筋の曲げ試験 (JIS G 3112) (JIS Z 2248)	211
22	鉄筋の引張試験 (JIS G 3112) (JIS Z 2241)	212
	(土質関係)	
23	土の含水比試験 (JIS A 1203) (JGS 0121)	213
24-1	砂置換法による土の密度試験 (較正) (JIS A 1214)	214
24-2	砂置換法による土の密度試験 (測定) (JIS A 1214)	215
25	土の収縮定数試験 (JIS A 1209) (JGS 0145)	216
26-1	C B R 試験 (初期状態、吸水膨張試験) (JIS A 1211) (JGS 0721)	217
26-2	C B R 試験 (貫入試験) (JIS A 1211) (JGS 0721)	218
26-3	C B R 試験 (室内試験結果) (JIS A 1211) (JGS 0721)	219
27	修正 C B R 試験	220
28	現場 C B R 試験 (JIS A 1222)	221
29	道路の平板載荷試験 (JIS A 1215)	222
30	土の直接せん断試験	223

様式	名 称	頁
31	ポータブルコーン貫入試験 (JGS 1431)	224
32	締固めた土のコーン指数試験 (JIS A 1228) (JGS 0716)	225
33-1	土の一軸圧縮試験 (初期状態、軸圧縮過程) (JIS A 1216) (JGS 0511)	226
33-2	土の一軸圧縮試験 (強度・変形特性) (JIS A 1216) (JGS 0511)	227
34-1	土の液性限界・塑性限界試験 (測定) (JIS A 1205) (JGS 0141)	228
34-2	土の液性限界・塑性限界試験 (試験結果) (JIS A 1205) (JGS 0141)	229
35	土粒子の密度試験 (検定、測定) (JIS A 1202) (JGS 0111)	230
36-1	土の粒度試験 (ふるい分析) (JIS A 1204) (JGS 0131)	231
36-2	土の粒度試験 (2mmふるい通過分分析) (JIS A 1204) (JGS 0131)	232
36-3	土の粒度試験 (粒径加積曲線) (JIS A 1204) (JGS 0131)	233
37-1	突固めによる土の締固め試験 (測定) (JIS A 1210) (JGS 0711)	234
37-2	突固めによる土の締固め試験 (締固め特性) (JIS A 1210) (JGS 0711)	235
	(アスファルト関係)	
38	アスファルト試験成績一覧表	236
39	アスファルトの粘度温度表	237
40	粗骨材試験成績一覧表 (碎石)	238
41	細骨材試験成績一覧表 (砂)	239
42	石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表	240
43	骨材粒度曲線表 (アスファルト)	241
44	合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例	242
45	骨材の推定変動範囲 (細骨材及びスクリーニングス)	243
46	骨材配合率の密度補正	244

様式	名 称	頁
47	骨材配合率及び合成粒度(室内試験)	245
48	合成粒度曲線(室内試験)	246
49	試験配合表(アスファルト量別)	247
50-1	アスファルト混合物の安定度試験(マーシャル式・理論最大密度)	248
50-2	アスファルト混合物の安定度試験(マーシャル式)	249
51	試験結果図表	250
52	マーシャル試験による基準アスファルト量	251
53	フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験	252
54	粗骨材のすりへり試験 (JIS A 1121)	253
55	アスファルトの抽出試験	254
56	路面の平坦性試験表(標準偏差)	255
57	ブルーフローリング試験	256
	(品質管理関係)	
58-1	\bar{X} -R管理データシート	257
58-2	\bar{X} -R管理データシート	258
58-3	\bar{X} -R管理図	259
59-1	X-R _s -R _m 管理データシート	260
59-2	X-R _s -R _m 管理データシートの2	261
60	X-R _s -R _m 管理図	262
61	工事写真(表紙)	263

平成 年度

工事 出来形管理図表

一部完成検査，出来形検査，中間検査

月 日	回	検査種別	検 査 員 職・氏名・印	総括監督員 職・氏名・印	監 督 員 職・氏名・印	現場代理人 氏 名 ・ 印
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						

完 成 検 査

月 日	検 査 員 職・氏 名・印	総括監督員 職・氏 名・印	監 督 員 職・氏 名・印	現場代理人 氏 名・印
月 日				

支庁・課名 _____

請負者名 _____

- 注) 1. 出来形管理図表は、本表紙様式により全工種を一括綴りとし、インディックス等により検査毎に仕分けし、更に工種毎に細仕分けするものとする。
2. 出来形管理図表は、検査のつど監督職員に提出するものとする。
3. 工種は、施工管理基準の「工種」の項目とする。

平成 年度

工事 品質管理図表

一部完成検査，出来形検査，中間検査

月 日	回	検査種別	検 査 員 職・氏名・印	総括監督員 職・氏名・印	監 督 員 職・氏名・印	現場代理人 氏 名 ・ 印
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						

完 成 検 査

月 日	検 査 員 職・氏 名・印	総 括 監 督 員 職・氏 名・印	監 督 員 職・氏 名・印	現場代理人 氏 名・印
月 日				

支庁・課名 _____

請負者名 _____

- 注) 1. 品質管理図表は、本表紙様式により全工種を一括綴りとし、インディックス等により検査毎に仕分けし、更に工種毎に細仕分けするものとする。
2. 品質管理図表は、検査のつど監督職員に提出するものとする。
3. 工種は、施工管理基準の「工種」の項目とする。

様式 2

出来形管理図表 (図表)

平成 年度 工事 管理図表 請負者 現場代理人

総合支庁 課 監督員 測定者

番号	月日
(単位)	

記事

- 注 1. 工種名は、盛土工、下層路盤工、現場打型水路、吹付工等を記入する。
- 2. 標題は、厚管理図表、基準高管理図表と記入する。
- 3. 番号は、あらかじめ測点を定め、起点から終点に向かって順序に記入しておく。
- 4. 月日は、測定の際、該当測量番号にあたるものを記入する。
- 5. 設計値と実測値の単位を定め、目盛に数値を記入する。
- 6. 図表には規格値の線を朱書きで記入する。
- 7. 記事は、手当の処置等を記入承諾印を押す。

様式 2-2

度 数 表

総 監	括 督	員	主 技	任 者

工 事 名 _____
工 種 名 _____
平 成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 現 在
請 負 会 社 名 _____
測 定 者 _____ 印

← 度 数 (回)																					(-) ← 設 計 値 と の 差 → (+)

注) 出来形管理で20点以上の場合使用する。

様式 3-1

測定結果表

請負者 現場代理人 印

工種

細別

測定者 印

単位: mm

測定項目										略 図	
	規格値	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値		差
測定又は区分											

注) 基準高については、設計図書において表示されているものについて記入する。

鋼管溶接測定結果一覽表

總 監 督 員	括 弧 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____

請負会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

測定位置	実 測 値				管理基準値	摘 要
	X	Y	X'	Y'		

鋼管溶接、塗覆装点検表

総 監 督	括 員 監 督	員	主 任 技 術 者

工事名 _____

請負会社名 _____

測定者 _____ 印

測定位置	工 種	項 目	判 定		摘 要
			良	否	

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

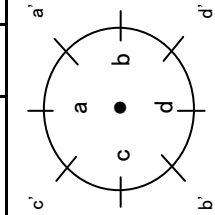
総監	監督員	監督員	主任技術者
----	-----	-----	-------

工事名 (呼び径)	測定年月日	測定位置 (管番号)	測定値(接合時)				管理基準値	判定	備考	測定年月日	測定値(埋戻後)				(参考) 規格値	判定	備考	
			a	b	c	d					平均	a	b	c				d
			測定者															

請負会社名

測定者

印



測定箇所

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均とする。
 2. (参考)規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 3. 測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から測定しても良い。
 また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。
 4. 施工データが安定するまでの間は、上表の4箇所にごだわらず密に測定すること。
 5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。

<記載例>

測定位置	測定値				平均
	a	b	c	d	
NO.〇〇受(受口側データ記載)					
〃挿(挿口側データ記載)					

埋設とう性管たわみ量管理表

総 監 督 員	括 弧 員	監 督 員	主 任 者 技 術

工 事 名 _____

請負会社名 _____

管種(長さ) _____

測 定 者 _____ 印

測 定 位 置 (管番号)	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm) (内径)(管厚)
	D _v mm	たわ み率 %	D _h mm	たわ み率 %	D _v mm	たわ み率 %	D _h mm	たわ み率 %	D _v mm	たわ み率 %	D _h mm	たわ み率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100(\%)$$

ΔX=[2R-(D_v+t)]又は[2R-(D_h+t)]

2R: 管厚中心直径

t: 管厚

注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。

2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理 管水路工事 管水路 (埋設とう性管)の測定基準による。

3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

様式 4

杭打ち成績表

総 監 督	括 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 : _____

請負会社名 : _____

工種名 : _____

測定者 _____ 印

杭打込み 月日	杭番号	杭規格	測定時 杭深度(m)	ハンマー 落下高(cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図

適用公式名: _____

設計支持力: _____

(コンクリート関係)

様式 5

セメントの密度試験
(JIS R 5201)

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____

請負会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印 _____

試 験 日	平成 年 月 日		曜	天候	
試験日の状態	室 温 (° C)	湿 度 (%)	水 温 (° C)		
試 料					
測 定 番 号	1	2	3	4	
① フラスコの番号					
② 初めの鉢油の読み (mℓ)					
③ 試料の質量 (g)					
④ 試料と鉢油の読み (mℓ)					
⑤ 密 度 $\frac{\textcircled{3}}{\textcircled{4} - \textcircled{2}}$					
⑥ 許 容 差					
⑦ 平 均 値					
考 察					

セメント粉末度試験(比表面積試験)
(JIS R 5201)

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日	曜	天候
試験日の状態	室 温 (° C)	湿 度 (%)	
試 料			
① セルと水銀との質量 (g)			
② セルの質量 (g)			
③ 水銀の質量 ① - ② (g)			
④ (セル)+(セメント)+(水銀)の質量 (g)			
⑤ (セル)+(セメント)の質量 (g)			
⑥ 水銀の質量 ④ - ⑤ (g)			
⑦ 水銀の密度 (g/cm ³)			
⑧ ベットの体積 $\frac{③ - ⑥}{⑦}$ (cm ³)			
⑨ 平 均 値			
測 定 番 号	1	2	3
試 料 の 質 量 (g)			
標 準 試 料 降 下 時 間 t ₀ (s)			
標 準 試 料 比 表 面 積 (cm ² /g)			
セ メ ン ト 降 下 時 間 t (s)			
セ メ ン ト 比 表 面 積 (cm ² /g)			
許 容 差			
平 均 値			
考 察			

様式 7

セメントの凝結試験
(JIS R 5201)

総 監 督	括 員 監 督	員 主 技 術	者 印

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印

試 験 日	平成 年 月 日 曜	天候
試験日の状態	室内の温度 (°C)	室内の湿度 (%)
		水温 (°C)
	湿気箱内の温度 (°C)	湿気箱内の湿度 (%)
試 料		
測 定 番 号	1	2
試 料 の 質 量 (g)		
水 の 量 (m ϕ)		
注 水 時 刻 (h \cdot min)		
始 発 時 刻 (h \cdot min)		
始 発 時 間 (min)		
終 結 時 刻 (h \cdot min)		
終 結 時 間 (h)		
考 察		

様式 8

セメントの安定性試験
(JIS R 5201)

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 日	平成 年 月 日 曜			天候			
試験日の状態	室 温 (° C)	湿 度 (%)	水 温 (° C)				
養生温度(°C)							
試 料							
測 定 番 号		1	2	3	4		
試 料 の 質 量 (g)							
水 の 量 (mℓ)							
ひび割れ・反りの有無							
試験結果							
考 察							

様式 9

セメントの強さ試験
(JIS R 5201)

総監督員	括弧監督員	主任技術者

工事名 _____

請負会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

試験日		平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日
試験日の状態	室温 (°C)				
	湿度 (%)				
養生温度 (°C)					
材 齢 (日)					
供試体質量 (g) (脱型直後)	1				
	2				
	3				
供試体質量 (g) (強さ試験直前)	1				
	2				
	3				
曲げ試験	最大荷重 (N)	1			
		2			
		3			
	曲げ強さ (N/mm ²)	1			
		2			
		3			
平均値 (N/mm ²)					
圧縮試験	最大荷重 (N)	1			
		2			
		3			
		4			
		5			
		6			
	圧縮強さ (N/mm ²)	1			
		2			
		3			
		4			
		5			
		6			
平均値 (N/mm ²)					
供試体作製日 : 平成 年 月 日					

細骨材の密度および吸水率試験
(JIS A 1109)

総 監 督	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____

請負会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

試験日	平成 年 月 日 曜 天候			
試験日の状態	室 温 (°C)	湿 度 (%)	水 温 (°C)	乾燥温度 (°C)
試 料				
測 定 番 号	1	2	3	4
① ピクノメーターの番号				
② 500mℓの目盛りまで水を満たしたピクノメーターの質量 m_1 (g)				
③ 試料の質量 m_2 (g)				
④ 試料と水で500mℓの目盛りまで満たしたピクノメーターの質量 m_3 (g)				
⑤ 密 度 $\frac{③ \times \rho_w}{② + ③ - ④}$ (g/cm ³)				
⑥ 平 均 値				
⑦ 平 均 値 と の 差				
⑧ 試料の質量 m_4 (g)				
⑨ 試料の乾燥質量 m_5 (g)				
⑩ 吸 水 率 $\frac{⑧ - ⑨}{⑨} \times 100$ (%)				
⑪ 平 均 値 (%)				
⑫ 平 均 値 と の 差 (%)				
考 察				
				試験温度における水の密度 $\rho_w =$ g/cm ³

粗骨材の密度および吸水率試験
(JIS A 1110)

総 監 督	括 員 監 督	員 監 督	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 日	平成 年 月 日 曜 天候			
試験日の状態	室 温 (° C)	湿 度 (%)	水 温 (° C)	乾 燥 温 度 (° C)
試 料				
測 定 番 号	1	2	3	4
① 試 料 の 質 量 m_1 (g)				
② 水 中 の か ご と 試 料 の 質 量 m_2 (g) 見 掛 け の 質 量				
③ 水 中 の か ご の 見 掛 け の 質 量 m_3 (g)				
④ 水 中 の 試 料 の 見 掛 け の 質 量 $(m_2 - m_3)$ (g)				
⑤ 密 度 $\frac{① \times \rho_w}{① - ④}$ (g/cm ³)				
⑥ 平 均 値				
⑦ 平 均 値 と の 差				
⑧ 乾 燥 後 の 試 料 の 質 量 m_4 (g)				
⑨ 吸 水 率 $\frac{① - ⑧}{⑧} \times 100$ (%)				
⑩ 平 均 値 (%)				
⑪ 平 均 値 と の 差 (%)				
考 察				
試験温度における水の密度 $\rho_w =$ g/cm ³				

細骨材の表面水率試験
(JIS A 1111)

総 監 督	括 員 監 督	員 主 任	者 技 術

工事名 _____

請負会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

試験日	平成	年	月	日	曜	天候
試験日の状態	室 温 (°C)	湿 度 (%)			水 温 (°C)	
試 料	d _s : 試料の表面乾燥密度 = g/cm ³					
測 定 番 号	1	2	3	4		
① 試料の質量 m ₁ (g)						
② (フラスコ)+(マークまでの水)の質量 m ₂ (g)						
③ (フラスコ)+(マークまでの水) +(試料)の質量 m ₃ (g)						
④ m=①+②-③ (g)						
⑤ ms = $\frac{\text{①}}{d_s}$						
⑥ 表面水率 H = $\frac{\text{④}-\text{⑤}}{\text{①}-\text{④}} \times 100$ (%)						
⑦ 平 均 値 (%)						
⑧ 平 均 値 と の 差 (%)						
⑨ 試 料 を 覆 う 水 量 V ₁ (mℓ)						
⑩ (試料)+(水)の容積 V ₂ (mℓ)						
⑪ V=⑩-⑨ (g)						
⑫ 表面水率 = H = $\frac{\text{⑪}-\text{⑤}}{\text{①}-\text{⑪}} \times 100$ (%)						
⑬ 平 均 値 (%)						
⑭ 平 均 値 と の 差 (%)						
考 察						

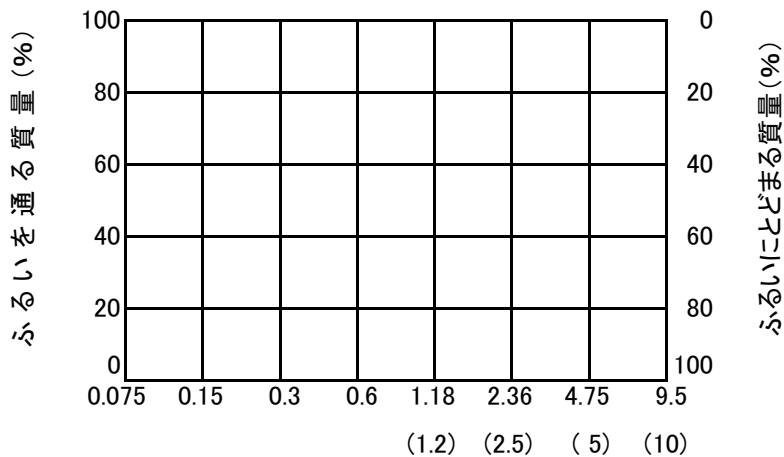
骨材のふるい分け試験（細骨材）
(JIS A 1102)

総 監 督	括 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候
試験日の状態	室 温 (° C)
	湿 度 (%)
試 料	-----
ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる質量の累計
	各ふるいにとどまる質量 ふるいを通る質量
	(g) (%) (g) (%) (%)
9.5 (10)	
4.75 (5)	
2.36 (2.5)	
1.18 (1.2)	
0.6	
0.3	
0.15	
0.075	
受 皿	
計	
粗粒率	



考 察

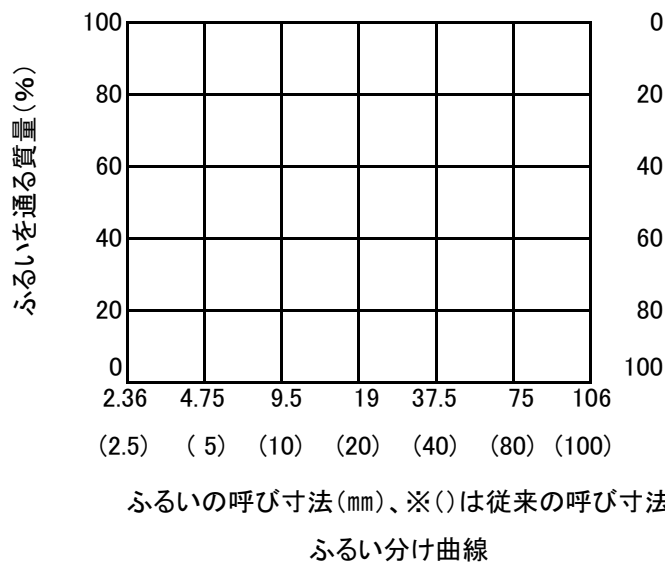
骨材のふるい分け試験(粗骨材)
(JIS A 1102)

総 監 督	括 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候				
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)		
試料	-----				
ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる質量の累計		各ふるいにとどまる質量		ふるいを通る質量
	(g)	(%)	(g)	(%)	(%)
最大寸法 (mm)			粗粒率		



考 察

骨材試験成績一覧表

総監督員	括弧監督員	主任技術者

工事名 _____

請負会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印

試料採取地名									
試験日									
ふるい分け	粗骨材	150mm以上通過質量百分率%							
		150 ~ 100 "							
		100 ~ 80 "							
		80 ~ 60 "							
		60 ~ 50 "							
		50 ~ 40 "							
		40 ~ 30 "							
		30 ~ 25 "							
		25 ~ 20 "							
		20 ~ 15 "							
		15 ~ 10 "							
		10 ~ 5 "							
		5以下 "							
			粗粒率						
け	細骨材	5mm以上通過質量百分率%							
		5 ~ 2.5 "							
		2.5 ~ 1.2 "							
		1.2 ~ 0.6 "							
		0.6 ~ 0.3 "							
		0.3 ~ 0.15 "							
		0.15以下 "							
	粗粒率								
細骨材	密度								
	単位容積質量(標準) kg/m ³								
	単位容積質量(軽装) kg/m ³								
	安定性 %								
	吸水量 %								
粗骨材	洗い試験 %								
	密度								
	単位容積質量(標準) kg/m ³								
	単位容積質量(軽装) kg/m ³								
	安定性 %								
	吸水量 %								
	すりへり減量 %								
	洗い試験 %								
軟石量試験 %									
細長扁平試験 %									
備考									

様式 15

コンクリートのスランプ試験およびフレッシュコンクリートの
空気量の圧力による試験(空気室圧力方式)
 (JIS A 1101、JIS A 1128)

総 監 督	括 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印

試験日	平成 年 月 日 曜 天候											
試験日の状態	室温 (°C)			湿度 (%)				水温 (°C)				
試料												
示方配合	粗骨材 の最大 寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメ ント比 W/C (%)	空気 量 (%)	細骨 材率 s/a (%)	単位量(kg/m³)						混和剤 (g/m³)
						水 W	セメント C	混和 材 F	細骨 材 S	粗骨材G		
										mm }	mm }	
測定番号	1			2				3				
① スランプ (cm)												
② 突き棒でコンクリートの側面をたたいたときの状態												
③ 見掛けの空気量 (%)												
④ 骨材修正係数 (%)												
⑤ 空気量 ③-④ (%)												
⑥ コンクリートの温度 (°C)												
考 察	-----											

コンクリートの圧縮強度試験
(JIS A 1108)

総 監 督	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜		天候									
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)									
試料												
示方配合	粗骨材 の最大 寸法 (mm)	スラン プ (cm)	水セメ ント比 W/C (%)	空気 量 (%)	細骨 材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m ³)						
						水 W	セメント C	混和 材 F	細骨 材 S	粗骨材G		混和剤 (g/m ³)
										mm ? mm	mm ? mm	
材 齢 (日)												
養生方法												
養生温度 (°C)												
供試体番号	1	2	3	4								
平均直径 (mm)												
断面積 (mm ²)												
平均高さ (mm)												
スラン プ (cm)												
質 量 (kg)												
最大荷重 (N)												
圧縮強度 (N/mm ²)												
平均圧縮強度 (N/mm ²)												
見掛け密度 (kg/m ³)												
平均見掛け密度 (kg/m ³)												
供試体の破壊状況の スケッチ												
考 察												

コンクリートの曲げ強度試験
(JIS A 1106)

総監督員	監督員	主任技術者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜										天候			
試験日の状態	室温 (°C)				湿度 (%)				水温 (°C)					
試料														
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スパン (cm)	水セメント比 W/C (%)	空気量 (%)	細骨材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m ³)						粗骨材G mm mm mm mm		混和剤 (g/m ³)
						水	セメント	混和材	細骨材					
						W	C	F	S					
材 齢 (日)														
養生方法							養生温度 (°C)							
供試体番号	1			2			3			4				
平均幅 (mm)														
平均高さ (mm)														
スパン (mm)														
最大荷重 (N)														
曲げ強度 (N/mm ²)														
平均曲げ強度 (N/mm ²)														
破壊断面とこれに近い支点との距離 (mm)														
供試体の破壊状況のスケッチ														
考 察														

フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験
(JIS A 5308、JIS A 1144)

総監督	括監督員	監督員	主任技術者

工事名 _____ 請負会社名 _____ 印
 工種名 _____ 測定者 _____

試験日	平成	年	月	日	天	候				
試験料	採取方法									
	保管方法									
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	水	セメント	細骨材	粗骨材	混和材料
								~ mm mm	~ mm mm	
	分析	方法								
	測定器名及び指示薬									
測定回数	1	2	3	平均						
塩化物イオン濃度 (%)										
塩化物量 (kg/m ³)	判定基準					測定場所				
	_____以下					現場 工場				

骨材のアルカリシリリカ反応性試験（化学法）
 (JIS A 5308、JIS A 1145)

総監	括監督員	監督員	主任技術者

工 事 名 _____ 請負会社名 _____ 印

工 種 名 _____ 測 定 者 _____

試	骨材の種類	骨材の産地	繰返し	試料量 (g)	反応時間 (hf)	日 平成 年 月 日				アルカリ濃度減少量(Rc) (mmol/ℓ)			溶解シリカ量 (Sc)			原子吸光度法			有害度の判定
						V ₁ (mℓ)	V ₂ (mℓ)	V ₃ (mℓ)	Rc	平均値	V (mℓ)	C (mg/ℓ)	Sc	平均値	W (g)	Sc	平均値	C (mg/ℓ)	
			1																
			2																
			3																
			1																
			2																
			3																
			1																
			2																
			3																
	備考																		

様式 20

骨材のアルカリシリカ反応性試験（モルタルバー法）
 (JIS A 5308、JIS A 1146)

総監督	括弧監督員	監督員	主任技術者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜		天候				
試験日の状態	気温 (°C)	室温 (°C)	容器内温度 (°C)	容器内湿度 (%)			
セメント	種別 全アルカリ						
骨材	産地 種別						
区分	材 齢	脱型時	2週間	4週間	8週間	3ヶ月	6ヶ月
① 基長 L (有効ゲージ長) ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
② 供試体脱型時のダイヤルゲージの読み X_{ini} ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
③ 同時測定した標準尺のダイヤルゲージの読み sX_{ini} ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
④ 材齢iにおける供試体のダイヤルゲージの読み X_i ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑤ 材齢iにおける標準尺のダイヤルゲージの読み sX_i ($\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑥ 膨張率 (%) $\frac{(\text{④}-\text{⑤})-(\text{②}-\text{③})}{L} \times 100$	1						
	2						
	3						
	平均						
判定							
精度							
考 察							

鉄筋の引張試験
(JIS G 3112、JIS Z 2241)

総 監 督	括 員 監 督	員 主 任	者 技 術

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 日	平成 年 月 日 曜 天候	
試 験 日 の 状 態	気 温 (° C)	室 温 (° C)
試 料	料	
試 料 番 号		
呼 び 径 (mm)		
実 測 径 (mm)	最 大 径	
	最 小 径	
	平 均	
断 面 積 (mm ²)		
種 別		
記 号		
標 点 距 離 (mm)		
降 伏 点 荷 重 (N)		
降 伏 点 (N/mm ²)		
引 張 荷 重 (N)		
引 張 強 さ (N/mm ²)		
伸 び	(mm)	
	(%)	
切 断 位 置 に よ る 記 号		
試 験 片		
判 定		
考 察		

(土質関係)

様式 23

土の含水比試験

(JIS A 1203、JGS0121)

総 監 督	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

試料番号(深さ)					
容器 NO.					
m_a g					
m_b g					
m_c g					
w %					
平均値 w %					
特記事項					

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

- m_a : (試料+容器)質量
- m_b : (炉乾燥試料+容器)質量
- m_c : 容器質量

(社)地盤工学会規格準用

砂置換法による土の密度試験(校正)
(JIS A 1214)

総 監 督 員	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

I. ジャーとピクノメータートップとの体積の校正

測 定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに水を満たした質量 m_2 g					
測定器の質量 m_1 g					
満たした水の質量 $m_2 - m_1$ g					
測定器中の水の温度 t °C					
t °Cにおける水1g当たりの体積 K cm ³ /g					
ジャーとピクノメータートップとの体積 $V_1 = K(m_2 - m_1)$ cm ³					
平均値 V_1 cm ³					

II. 試験用砂の乾燥密度の校正

測 定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした質量 m_3 g					
測定器の質量 m_1 g					
測定器中の砂の質量 $m_4 = m_3 - m_1$ g					
試験用砂の乾燥密度 $\rho_{ds} = m_4 / V_1$ g/cm ³					
平均値 ρ_{ds} g/cm ³					

III. 漏斗を満たすのに必要な砂の質量の校正

測 定 NO.	1	2	3	4	5
測定器と入れた砂の質量 m_3' g					
漏斗を満たした砂を除き測定器と残った砂の質量 m_5 g					
漏斗を満たすのに必要な砂の質量 $m_6 = m_3' - m_5$ g					
平均値 m_6 g					

特記事項

砂置換法による土の密度試験(測定)
(JIS A 1214)

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

測定器 NO.	土質名称
試験用砂の乾燥密度 ρ_{ds} g/cm ³	漏斗を満たすのに必要な砂の質量 m_6 g
試験孔 NO.	
最大粒径 mm	
容器 NO.	
容器質量 g	
(試験孔から取り出した土+容器)質量 g	
試験孔から取り出した湿潤土の質量 m_7 g	
試験孔から取り出した土の炉乾燥質量 $m_0=100m_7/(w+100)$ g	
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした質量 m_3 g	
測定器と残った砂の質量 m_8 g	
試験孔および漏斗に入れた砂の質量 $m_9=m_3-m_8$ g	
試験孔を満たすのに要する砂の質量 $m_{10}=m_9-m_6$ g	
試験孔の体積 $V_0=m_{10}/\rho_{ds}$ cm ³	
湿潤密度 $\rho_t=m_7/V_0$ g/cm ³	
乾燥密度 $\rho_d=m_0/V_0$ g/cm ³	
容器 NO.	
(試料+容器)質量 m_a g	
(炉乾燥試料+容器)質量 m_b g	
容器質量 m_c g	
w %	
容器 NO.	
(試料+容器)質量 m_a g	
(炉乾燥試料+容器)質量 m_b g	
容器質量 m_c g	
w %	
平均値 w %	
含水比 w %	
湿潤密度 ρ_t g/cm ³	
乾燥密度 ρ_d g/cm ³	

特記事項

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

土の収縮定数試験
(JIS A 1209、JGS 0145)

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号 (深さ)						
測定 NO.						
収縮皿 NO.						
湿潤試料の体積	ガラス板の質量 m_g g					
	収縮皿の質量 m_c g					
	水の入った収縮皿とガラス板の質量 m g					
	水の温度 T °C					
	水の密度 ρ_w g/cm ³					
	湿潤試料の体積 V cm ³					
炉乾燥試料の体積	パラフィン塗布後の試料の質量 m_1 g					
	水中における吊り皿の見掛けの質量 m_2 g					
	水中における試料および吊り皿の見掛け質量 m_3 g					
	炉乾燥試料の質量 m_s g					
	パラフィンの密度 ρ_p g/cm ³					
	炉乾燥試料の体積 V_o cm ³					
含水比	湿潤試料と収縮皿の質量 m_a g					
	湿潤試料の含水比 w %					
	平均値 w %					
収縮限界	収縮限界 w_s %					
	平均値 w_s %					
収縮比	収縮比 R					
	平均値 R					
ある含水比 w_1 %						
体積収縮率 C %						
線収縮 L_s %						

特記事項

$$V = \frac{(m - m_c - m_g)}{\rho_w}$$

$$w_s = w - \frac{(V - V_o)\rho_w}{m_s} \times 100$$

$$R = \frac{m_s}{V_o \cdot \rho_w}$$

$$C = (w_1 - w_s)R$$

$$V_o = \frac{(m_1 - m_3 + m_2)}{\rho_w} - \frac{(m_1 - m_s)}{\rho_p}$$

$$w = \frac{(m_a - m_c - m_s)}{m_s} \times 100$$

$$L_s = \left[1 - \sqrt[3]{\frac{100}{C + 100}} \right] \times 100$$

CBR試験（初期状態、吸水膨張試験）
(JIS A 1211、JGS 0721)

総監督	括員	監督員	主任技術者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg	土質名称				
突き固め方法		落下高さ	cm	自然含水比 w_n	%			
試料準備	準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数/層	最適含水比 w_{opt}	%			
	空気乾燥前含水比 %		突固め層数 層	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³			
	試料調整後含水比 w_0 %		モールド内径	cm	荷重板質量	kg		
			高さ ¹⁾	cm	モールド容量 V	cm ³		
供試体 NO. _____								
含水比	容器 NO.							
	(試料+容器)質量 m_a	g						
	(炉乾燥試料+容器)質量 m_b	g						
	容器質量 m_c	g						
	含水比 w_1	%						
平均値 w_1	%							
密度	(試料+モールド)質量 $m_2^{2)}$	g						
	モールド質量 $m_1^{2)}$	g						
	湿潤密度 ρ_t	g/cm ³						
	乾燥密度 ρ_d	g/cm ³						
吸水膨張試験	水浸時間 h	時刻	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm
	0							
	1							
	2							
	4							
	8							
	24							
	48							
	72							
	96							
(試料+モールド)質量 $m_3^{2)}$	g							
膨張比 γ_e	%							
湿潤密度 ρ_t'	g/cm ³							
乾燥密度 ρ_d'	g/cm ³							
平均含水比 w'	%							

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く
- 2) モールドの質量は有孔底板を含む

$$\gamma_e = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (125mm)}} \times 100$$

$$\rho_t' = \frac{m_3 - m_1}{\sqrt{(1 + \gamma_e/100)}} \quad \rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d' = \frac{\rho_d}{1 + \gamma_e/100} \quad \rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w_1/100}$$

$$w' = \left[\frac{\rho_t'}{\rho_d'} - 1 \right] \times 100 \quad w_1 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

C B R 試 験 (貫 入 試 験)
(JIS A 1211、JGS 0721)

総 監 督	括 弧 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 請負会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 条 件		水浸、非水浸		貫入速さ mm/min		荷重板質量 kg								
養 生 条 件		日 空 気 中		荷 重 計 NO.		貫入スピンドルの断面積 cm ²								
		日 水 浸		容 量 kN		較 正 係 数 $\frac{MN/m^2}{目盛}$ $\frac{kN}{目盛}$								
供 試 体 NO.				供 試 体 NO.		供 試 体 NO.								
貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重		貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重								
読 み		平均	荷重計 の読み	MN/m ² kN	読 み		平均	荷重計 の読み	MN/m ² kN					
1	2				1	2								
0					0									
0.5					0.5									
1.0					1.0									
1.5					1.5									
2.0					2.0									
2.5					2.5									
3.0					3.0									
4.0					4.0									
5.0					5.0									
7.5					7.5									
10.0					10.0									
12.5					12.5									
貫 入 試 験 後 の 含 水 比	容器NO.				貫 入 試 験 後 の 含 水 比	容器NO.				貫 入 試 験 後 の 含 水 比	容器NO.			
	m _a g					m _a g					m _a g			
	m _b g					m _b g					m _b g			
	m _c g					m _c g					m _c g			
	w ₂ %					w ₂ %					w ₂ %			
平均値 w ₂ %					平均値 w ₂ %					平均値 w ₂ %				

特記事項

$$w_2 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

m_a : (試料+容器)質量

m_b : (炉乾燥試料+容器)質量

m_c : 容器質量

[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]

[1kN ≒ 102kgf]

CBR試験(室内試験結果)
(JIS A 1211、JGS 0721)

総監督	括員	監督員	主任技術者

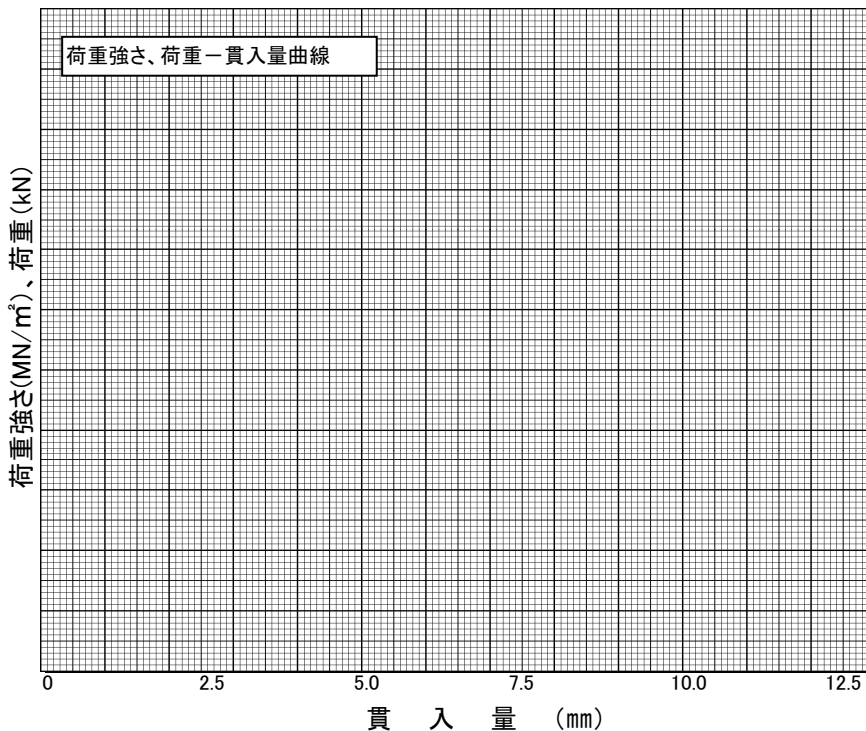
工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg	土質名称	
突固め方法		落下高さ	cm	空気乾燥前含水比	%
試料の準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数	回/層	自然含水比 w	%
試験条件	水浸、非水浸	突固め層数	層	最適含水比 w_{opt}	%
養生条件	日空气中	モールド	内径	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³
	日水浸		高さ ¹⁾		

供試体 NO.				
吸水膨張試験	前	含水比 w	%	
		乾燥密度 ρ_d	g/cm ³	
	後	膨張比 γ_e	%	
		平均含水比 w'	%	
貫入試験	試験後の含水比 w_2	%		
	貫入量2.5mmにおけるCBR	%		
	貫入量5.0mmにおけるCBR	%		
	CBR	%		

平均CBR %



特記事項
1) スペーサーディスクの高さを差引く。

[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]
[1kN ≒ 102kgf]

貫入量mm	2.5	5.0
荷重強さ重	供試体 NO.	
	供試体 NO.	
	供試体 NO.	
標準荷重強さ	MN/m ²	6.9 10.3
標準荷重	kN	13.4 19.9

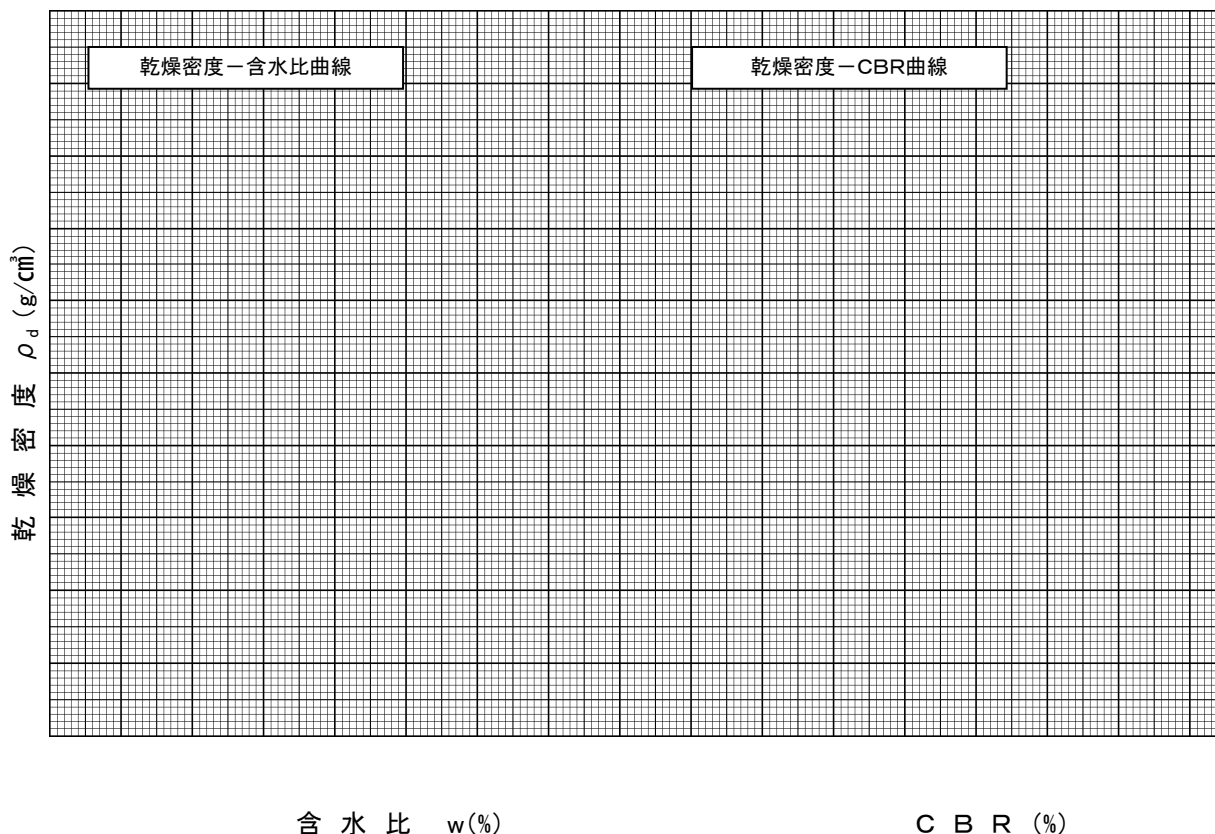
修正 C B R 試験

総 監 督	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

突固め回数	回/層	(層)			(層)			(層)		
供試体 NO.										
乾燥密度 ρ_d	g/cm ³									
平均値 ρ_d	g/cm ³									
貫入量2.5mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
貫入量5.0mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
ランマー質量	kg	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³	締固め度	%					
		最適含水比 w_{opt}	%	修正CBR	%					



特記事項 _____

現場 C B R 試験
(JIS A 1222)

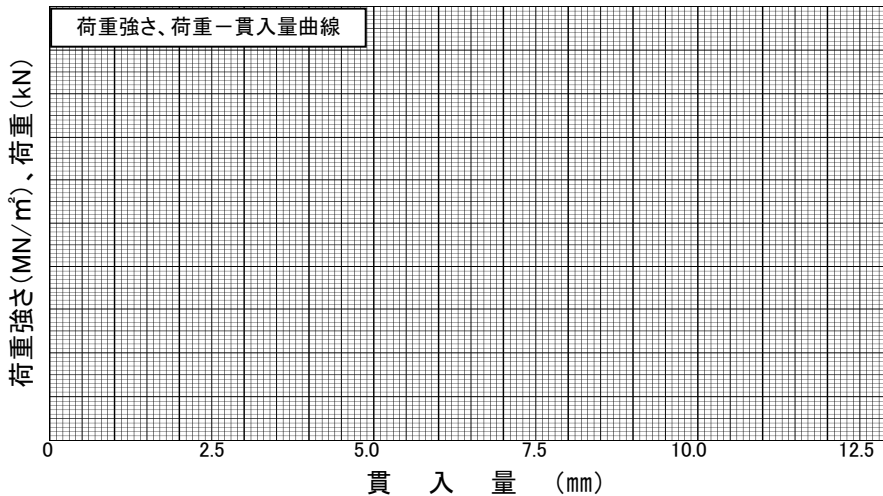
総監督員	監督員	主任技術者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

貫入スピンドル直径 cm	貫入スピンドル面積 m ²	貫入速度 mm/min
ジャッキの種類	ジャッキの能力 kN	反力装置の種類
荷重計容量 kN	荷重計の MN/m ² /目盛 校正係数 kN/目盛	天 候

測点 NO.				測点 NO.				
貫入量の読み mm		貫入量の読み の平均値 mm	荷重計の 読み	荷重強さ, 荷重 MN/m ² ,kN	貫入量の読み mm		荷重計の 読み	荷重強さ, 荷重 MN/m ² ,kN
1	2				1	2		
0.0					0.0			
0.5					0.5			
1.0					1.0			
1.5					1.5			
2.0					2.0			
2.5					2.5			
3.0					3.0			
4.0					4.0			
5.0					5.0			
7.5					7.5			
10.0					10.0			
12.5					12.5			
貫入量2.5mmにおけるCBR %				貫入量2.5mmにおけるCBR %				
貫入量5.0mmにおけるCBR %				貫入量5.0mmにおけるCBR %				
CBR %				CBR %				
試験箇所の含水比 w %				試験箇所の含水比 w %				



貫入量mm	2.5	5.0
荷重強さ重	測点 N.O.	測点 N.O.
標準荷重強さ MN/m ²	6.9	10.3
標準荷重 kN	13.4	19.9

特記事項

[1kN ≒ 102kgf]
[1MN/m² ≒ 10.2kgf/cm²]

(社)地盤工学会規格準用

道路の平板載荷試験
(JIS A 1215)

総 監 督	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者

試験日 平成 年 月 日

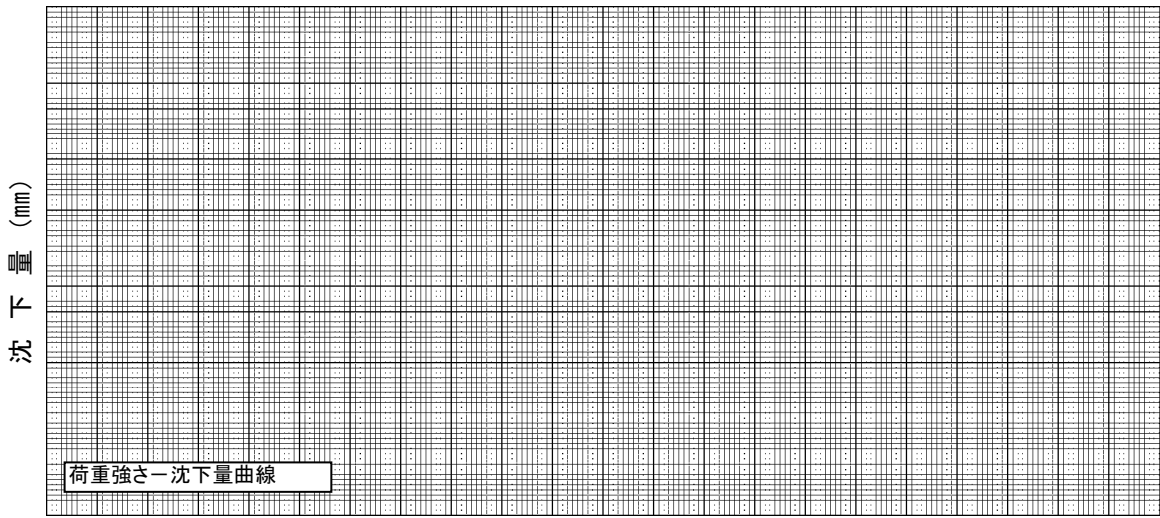
工事名 _____ 測定番号 _____
 工種名 _____ 測定場所 _____

請負会社名 _____
 測定者 _____ 印

載荷板の形状	載荷板の直径 cm	載荷板の面積 A m ²
ジャッキの種類	ジャッキの能力 kN	反力装置の種類
荷重計容量 kN	荷重計の 較正係数 K kN/m ² /目盛	天 候
計算に用いた沈下量 Smm	荷重強さ p kN/m ²	地盤反力係数 K _s MN/m ³

時間	荷重計の読み R	荷重強さ p=KR kN/m ²	変位計の読み mm				沈下量 mm
			1	2	3	4	

荷重強さ (kN/m²)



特記事項 _____
 K_s=p/S
 [1kN/m²≒0.0102kgf/cm²]
 [1MN/m³≒0.102kgf/cm³]

(社)地盤工学会規格準用

土の直接せん断試験

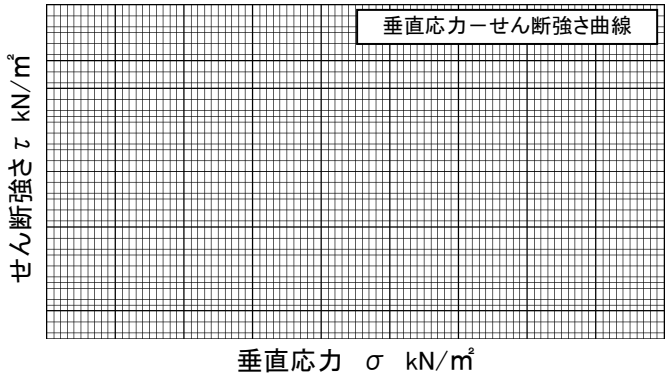
総監督員	括弧監督員	主任技術者

工事名 _____
 調査名・目的 _____
 試料番号 _____
 試料 _____ ・乱さない ・乱した
 試料採取深さ _____
 試験機の型 _____
 供試体の断面積 _____ m²
 供試体初期厚さ _____ cm
 供試体初期体積 V _____ cm³
 水の密度 ρ_w _____ g/cm³

試験日 平成 年 月 日
 試験方法 : 圧密排水・圧密非排水・非圧密非排水
 せん断方法 : 応力制御・ひずみ制御
 せん断速さ (载荷速さ _____ kN/m²/min)
 せん断力測定用ブルーピングリング NO _____
 換算係数 _____ kN/ $\frac{1}{100}$ mm (kN/m²/目盛)
 先行圧密応力 _____ kN/m²
 土粒子の密度 G_s _____ g/cm³

請負会社名 _____ 印
 測定者 _____

供試体番号		1	2	3	4	5	6
初期の状態	供試体質量 m g						
	湿潤密度 ρ _t = $\frac{m}{V}$ g/cm ³						
	含水比 w %						
	乾燥密度 ρ _d = $\frac{100 \cdot \rho_t}{100 + w}$ g/cm ³						
	間隙比 e = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d} - 1$						
飽和度 s _r = w · G _s / e %							
圧密の状態	せん断時の垂直応力 σ kN/m ²						
	载荷(圧密)時間						
	沈下量 cm						
圧密後の状態	供試体体積 V' cm ³						
	供試体質量 m' g						
	湿潤密度 ρ _t = $\frac{m'}{V'}$ g/cm ³						
	含水比 w' %						
	乾燥密度 ρ _d ' = $\frac{100 \cdot \rho_t'}{100 + w'}$ g/cm ³						
間隙比 e' = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d'}$							
飽和度 s _r ' = w' · G _s / e %							
せん断時の垂直応力 kN/m ²							
せん断強さ τ kN/m ²							



粘着力 C = _____ kN/m²
 内部摩擦角 φ = _____
 tan φ = _____
 先行圧密応力に対するせん断強さ
 τ₀ = _____ kN/m²

注) 含水比の測定は含水量測定試験試料は標準欄フルイ25.4mm _____ による

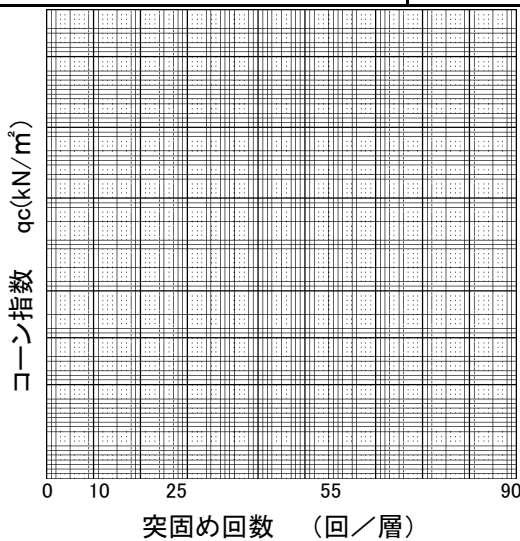
締固めた土のコーン指数試験
(JIS A 1228、JGS 0716)

総監督	括員	監督員	主任技術者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 _____

試料採取地点 _____ 採取日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

土質名称		モールド	NO.		荷重計	NO.		
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³			容量 V cm ³	1000		容量 N		
コーンの底面積 A m ²	3.24		(モールド+底板)質量 m ₁ g			較正係数 K N/目盛		
突固め回数 回/層			10	25	55	90		
含水比	容器 NO.							
	(試料+容器)質量 m _a g							
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b g							
	容器質量 m _c g							
	w %							
平均値 w %								
供試体	(供試体+モールド+底板)質量 m ₂ g							
	湿潤密度 ρ_t g/cm ³							
	乾燥密度 ρ_d g/cm ³							
	飽和度 S _r %							
空気間隙率 v _a %								
コーン指数	貫入抵抗力 N	貫入量	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力
		5 cm						
		7.5 cm						
		10 cm						
	平均貫入抵抗力 Q _c N							
コーン指数 q _c kN/m ²								



特記事項

1) 突固め回数が1種類の場合は記入の必要はない

水の密度 ρ_w g/cm³

$$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$$

$$\rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w/100}$$

$$S_r = \frac{w}{\rho_w / \rho_d - \rho_w / \rho_s}$$

$$v_a = \left\{ 1 - \frac{\rho_d}{\rho_w} \left[\frac{\rho_w}{\rho_s} + \frac{w}{100} \right] \right\} \times 100$$

$$q_c = \frac{Q_c}{A} \times 10$$

[1kN ≒ 102kgf]

[1kN/m² ≒ 0.0102kgf/cm²]

様式 33-1

土の一軸圧縮試験(初期状態、軸圧縮過程)
(JIS A 1216、JGS 0511)

総監	括督	監督員	主技	任者

工事名 _____ 請負会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

ひずみ速度 %/min		荷重計 NO.		ひずみ速度 %/min		荷重計 NO.	
荷重計容量 N		校正係数 KN/目盛		荷重計容量 N		校正係数 KN/目盛	
供試体	NO.	試料の状態		供試体	NO.	試料の状態	
	直径				直径		
	高さ				高さ		
	平均直径 D ₀ cm	断面積 A ₀ cm ²			平均直径 D ₀ cm	断面積 A ₀ cm ²	
	平均高さ H ₀ cm	質量 m g			平均高さ H ₀ cm	質量 m g	

含水比	容器NO.		供試体の破壊状況 <div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 50px; margin: auto;"></div>		容器NO.		供試体の破壊状況 <div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 50px; margin: auto;"></div>	
	m _a g				m _a g			
	m _b g				m _b g			
	m _c g				m _c g			
	w %				w %			
	平均値 w %				平均値 w %			

圧縮量 ΔH cm	圧縮ひずみ ε %	荷重計の読み	圧縮力 PN	圧縮応力 σ kN/m ²	圧縮量 ΔH cm	圧縮ひずみ ε %	荷重計の読み	圧縮力 PN	圧縮応力 σ kN/m ²

特記事項	$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$ m_a : (試料 + 容器) 質量 m_b : (炉乾燥試料 + 容器) 質量 m_c : 容器質量	$\epsilon = (\Delta H / H_0) \times 100$ $\sigma = \frac{P}{A_0} (1 - \epsilon / 100) \times 10$ [1kN/m ² ≒ 0.0102kgf/cm ²]
------	---	--

(社)地盤工学会規格準用

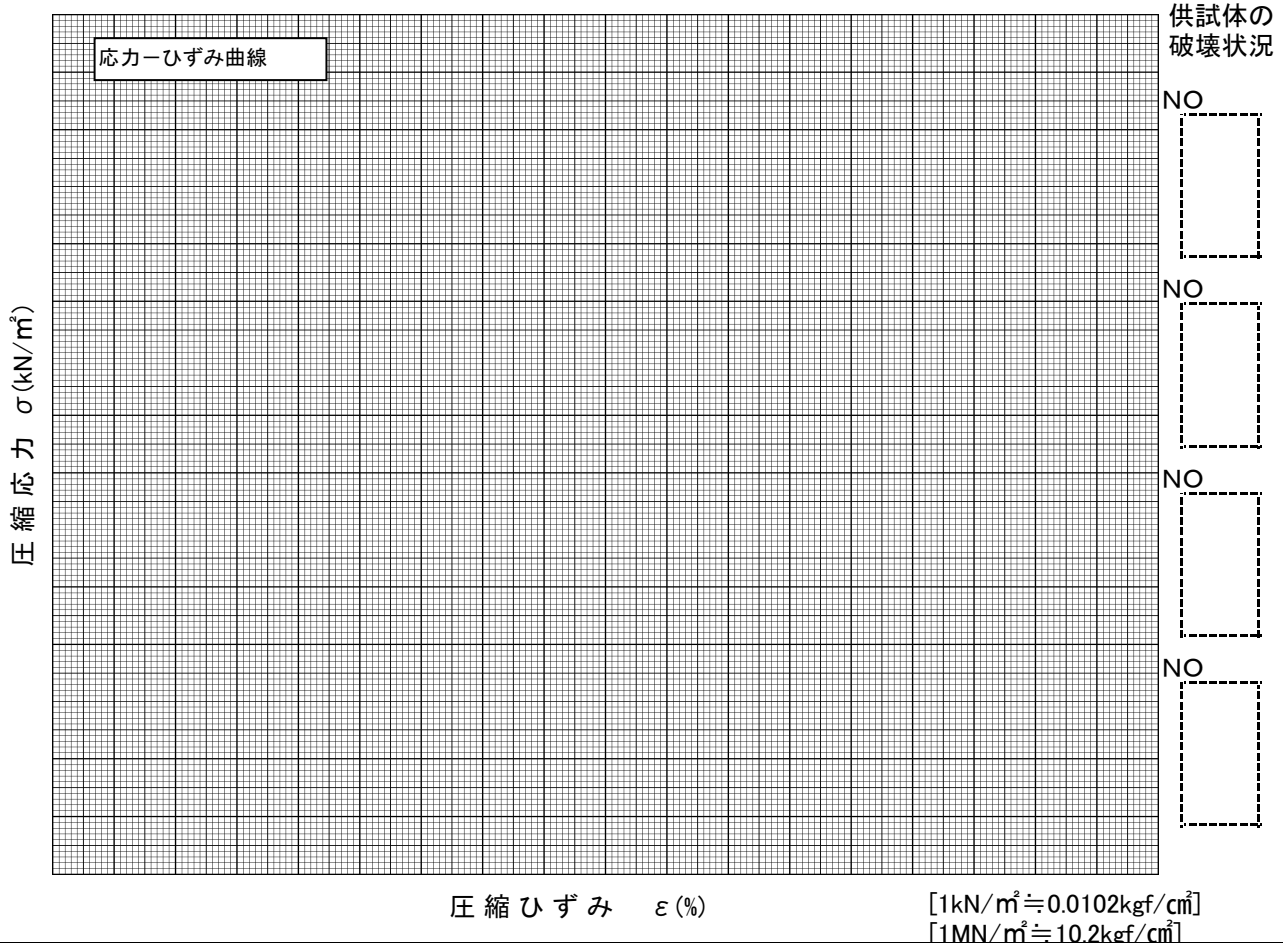
土の一軸圧縮試験(強度・変形特性)
(JIS A 1216、JGS 0511)

総監督員	括弧監督員	主任技術者

工事名 _____ 請負会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

土質名称		供試体 NO.			
液性限界 $w_L^{(1)}$ %		試験の状態			
塑性限界 $w_p^{(1)}$ %		高さ H_0 cm			
ひずみ速度 %/min		直径 D_0 cm			
特記事項 1) 必要に応じて記載する。 $E_{50} = \frac{q_u}{\frac{2}{\epsilon_{50}}} / 10$		質量 m g			
		湿潤密度 $\rho_t^{(1)}$ g/cm ³			
		含水比 w %			
		一軸圧縮強さ q_u kN/m ²			
		破壊ひずみ ϵ_f %			
		変形係数 $E_{50}^{(1)}$ MN/m ²			
		鋭敏比 $S_t^{(1)}$			



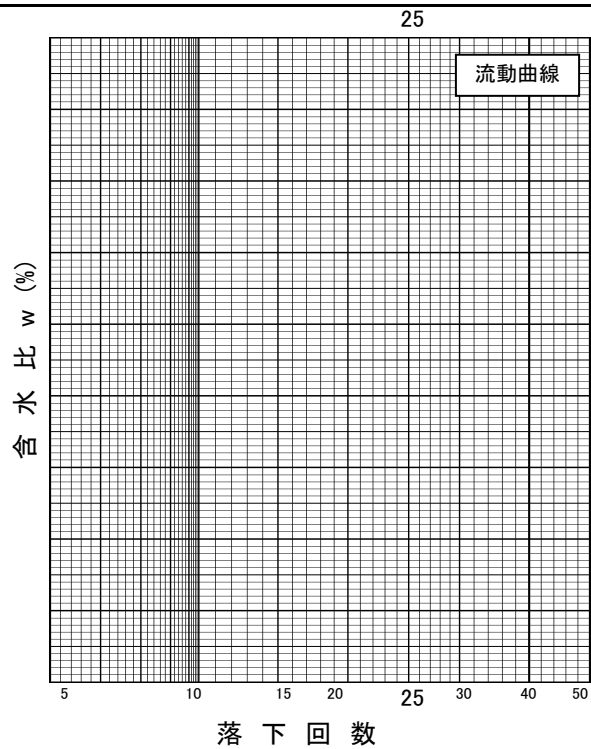
土の液性限界・塑性限界試験(測定)
(JIS A 1205、JGS 0141)

総監督員	括弧監督員	主任技術者

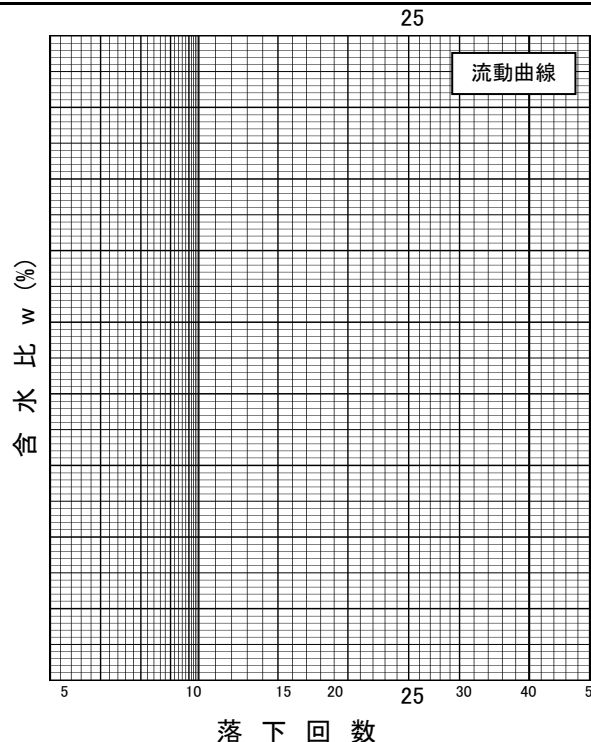
工事名 _____ 請負会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
w %			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
w %			
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
w %			
液性限界 W _L %	塑性限界 W _P %	塑性指数 I _P	



試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
w %			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
w %			
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	m _a g		
	m _b g		
	m _c g		
w %			
液性限界 W _L %	塑性限界 W _P %	塑性指数 I _P	



特記事項 _____ $I_P = W_L - W_P$ $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$ m_a : (試料+容器)質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量
 m_c : 容器質量

土の液性限界・塑性限界試験(試験結果)
(JIS A 1205、JGS 0141)

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____ 試験日 平成 年 月 日

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 W_p %
			塑性指数 I_p

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 W_p %
			塑性指数 I_p

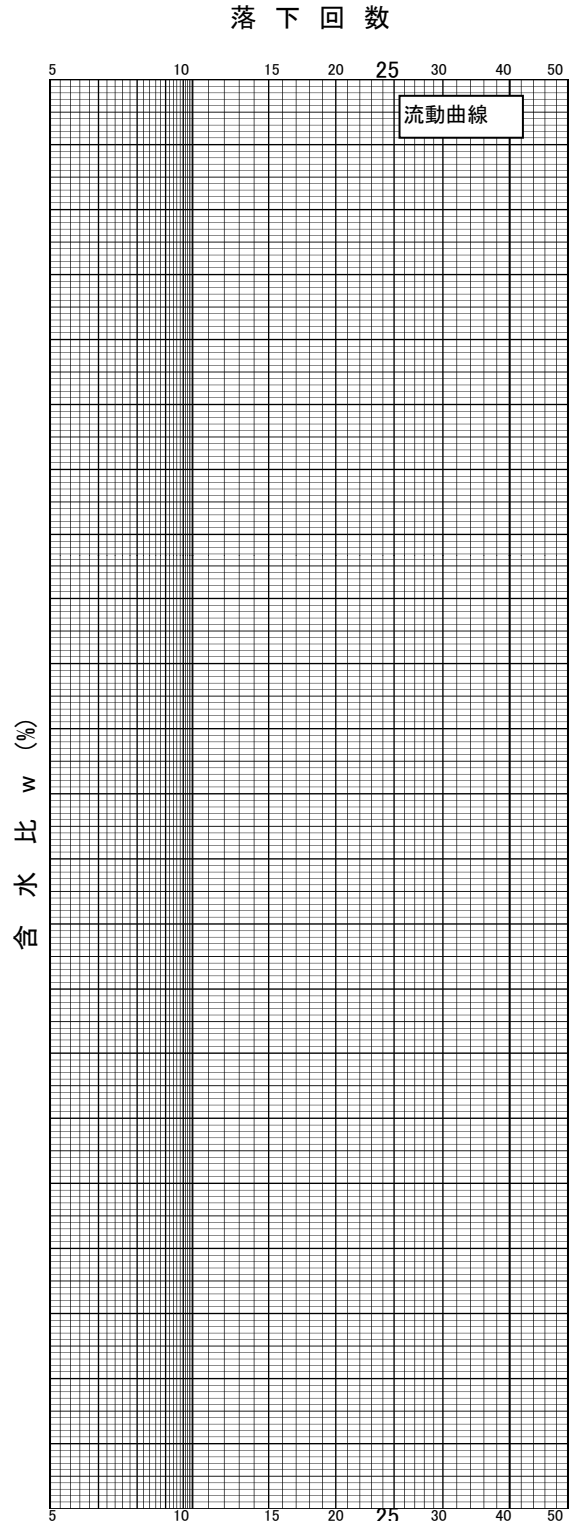
試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 W_p %
			塑性指数 I_p

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 W_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 W_p %
			塑性指数 I_p

特記事項



土粒子の密度試験（検定、測定）
(JIS A 1202、JGS 0111)

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 m_f g						
(蒸留水+ピクノメーター)質量 m'_a g						
m'_a をはかったときの蒸留水の温度 T' °C						
T' °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm ³						
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 m_b g						
m_b をはかったときの内容物の温度 T °C						
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³						
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_a g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	(炉乾燥試料+容器)質量 g					
	容器質量 g					
m_s g						
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³						
平均値 ρ_s g/cm ³						

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 m_f g						
(蒸留水+ピクノメーター)質量 m'_a g						
m'_a をはかったときの蒸留水の温度 T' °C						
T' °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm ³						
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 m_b g						
m_b をはかったときの内容物の温度 T °C						
T °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm ³						
温度 T °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 m_a g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	(炉乾燥試料+容器)質量 g					
	容器質量 g					
m_s g						
土粒子の密度 ρ_s g/cm ³						
平均値 ρ_s g/cm ³						

特記事項

$$m_a = \frac{\rho_w(T)}{\rho_w(T')} \times (m'_a - m_f) + m_f$$

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + (m_a - m_b)} \times \rho_w(T)$$

土の粒度試験（ふるい分析）
(JIS A 1204、JGS 0131)

総 監 督	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

全 試 料				2mmふるい通過試料(沈降分析を行わない場合)			
含 水 比	容器 NO.			容器 NO.			
	m_a g			m_a g			
	m_b g			m_b g			
	m_c g			m_c g			
	w %			w_1 %			
平均値w %				平均値 w_1 %			
(全試料+容器)質量 g				(2mmふるい通過試料+容器)質量 g			
容器(NO.)質量 g				容器(NO.)質量 g			
全試料質量 m g				2mmふるい通過試料の質量 m_1 g			
全試料の炉乾燥質量 $m_s = \frac{m}{1+w/100}$ g				2mmふるい通過試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1+w_1/100}$ g			
2mmふるい残留分の水洗い後の試料	(試料+容器)質量 g			全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量比	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s}$		
	容器(NO.)質量 g						
	炉乾燥質量 m_{os} g						

2mmふるい残留分 m_{os} のふるい分析

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	通過質量百分率P(d)
mm		g	g	$m(d)$ g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_s} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_s}) \times 100$ %
75							
53							
37.5							
26.5							
19							
9.5							
4.75							
2							

2mmふるい通過分 m_{1s} のふるい分析(沈降分析を行わない場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率P	通過質量百分率P(d)
μm		g	g	$m(d)$ g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項 $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$ m_a : (試料+容器)質量 m_c : 容器質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量

(社)地盤工学会規格準用

土の粒度試験(2mmふるい通過分分析)
(JIS A 1204、JGS 0131)

総監督	括弧監督員	監督員	主任技術者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 _____
 工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

2mmふるい通過試料				土粒子の密度 ρ_s g/cm ³
含水比	容器 NO.			塑性指数 I_p
	m_a g			分散装置の容器 NO.
	m_b g			メスシリンダー NO.
	m_c g			浮ひょう NO.
	w_1 %			メニスカス補正值 C_m
平均値 w_1 %				使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量
(沈降分析用試料+容器)質量 g				全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量の比
容器 (NO.) 質量 g				
沈降分析用試料質量 m_1 g				
沈降分析用試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1+w_1/100}$ g				$M = \frac{V}{m_{1s}} \cdot \frac{\rho_s}{\rho_s - \rho_w} \rho_w \times 100$

沈降分析

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
測定時間	経過時間	浮ひょうの読み		測定時の水温	有効深さ	粒径 d	補正係数	加積通過率 P	通過質量百分率 $P(d)$
	t min	小数部分 r	$r + C_m$	T °C	L mm	$\sqrt{\frac{30\eta}{g(\rho_s - \rho_w)}} \times \sqrt{\frac{L}{t}}$ mm	F	$M \times ((3) + F)$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
	1								
	2								
	5								
	15								
	30								
	60								
	240								
	1440								

ふるい分析(沈降分析を行う場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率 P	通過質量百分率 $P(d)$
μm		g	g	$m(d)$ g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項

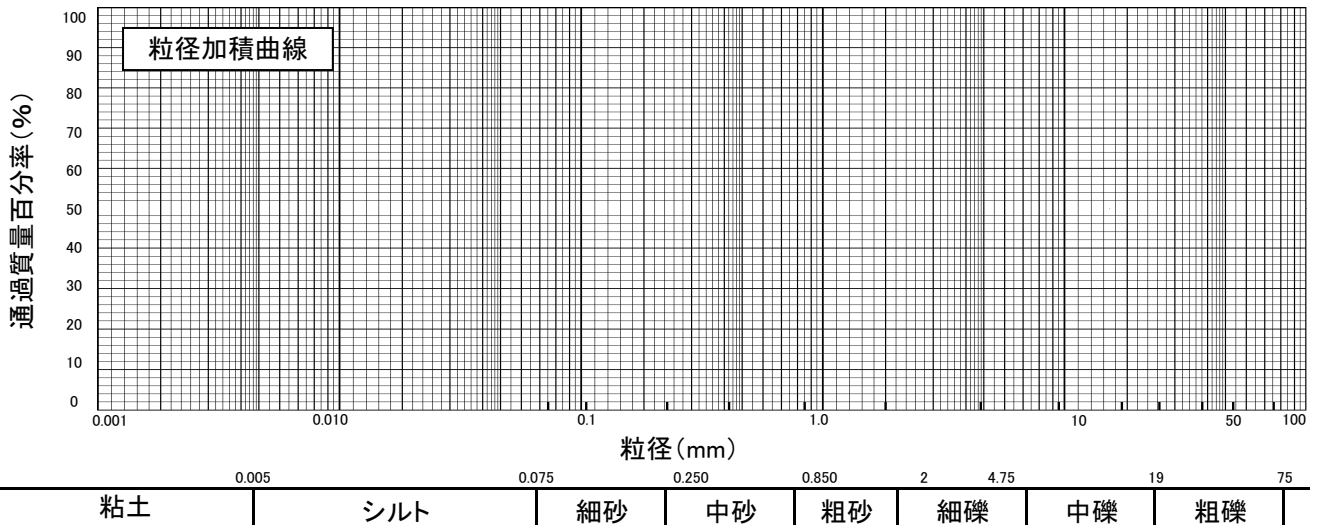
懸濁液の体積 $V=1000\text{cm}^3$
 $T^\circ\text{C}$ に対する水の密度 ρ_w g/cm³
 $T^\circ\text{C}$ に対する水の粘性係数 η p_a·s
 $w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$
 m_a : (試料+容器)質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量
 m_c : 容器質量

土の粒度試験（粒径加積曲線）
(JIS A 1204、JGS 0131)

総 監 督	括 員 監 督	員 監 督	主 任 技 術 者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 _____
 工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試料番号 (深さ)					試料番号 (深さ)			
	粒径mm	通過質量百分率%	粒径mm	通過質量百分率%	粗 礫 分 %			
ふるい分析	75		75		中 礫 分 %			
	53		53		細 礫 分 %			
	37.5		37.5		粗 砂 分 %			
	26.5		26.5		中 砂 分 %			
	19		19		細 砂 分 %			
	9.5		9.5		シルト分 %			
	4.75		4.75		粘 土 分 %			
	2		2		2mmふるい通過質量百分率 %			
	0.850		0.850		425μmふるい通過質量百分率 %			
	0.425		0.425		75μmふるい通過質量百分率 %			
	0.250		0.250		最大粒径 mm			
	0.106		0.106		60% 粒径 D ₆₀ mm			
	0.075		0.075		50% 粒径 D ₅₀ mm			
	沈降分析					30% 粒径 D ₃₀ mm		
					10% 粒径 D ₁₀ mm			
					均等係数 U _C			
					曲率係数 U _C			
					土粒子の密度 ρ _s g/cm ³			
					使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量			



特記事項 _____

(社)地盤工学会規格準用

突固めによる土の締固め試験(測定)
(JIS A 1210、JGS 0711)

総 監 督	員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 方 法		土質名称				
試料の準備方法	乾燥法、湿潤法	ランマー質量	kg	モ ー ル ド	内径	cm
試料の使用法	繰返し法、非繰返し法	落下高さ	cm		高さ ¹⁾	cm
含 水 比	試料分取後 w ₀ %	突固め回数	回/層		容量 V	cm ³
	乾燥処理後 w ₁ %	突固め層数	層		質量 m ₁ ²⁾	g

測 定 NO.		1	2	3	4
(試料+モールド)質量 m ₂ ²⁾	g				
湿 潤 密 度 ρ _t	g/cm ³				
平 均 含 水 比 w	%				
乾 燥 密 度 ρ _d	g/cm ³				

含 水 比	容 器 NO.				
	(試料+容器)質量 m _a	g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b	g			
	容 器 質 量 m _c	g			
	w	%			
含 水 比	容 器 NO.				
	(試料+容器)質量 m _a	g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b	g			
	容 器 質 量 m _c	g			
	w	%			

測 定 NO.		5	6	7	8
(試料+モールド)質量 m ₂ ²⁾	g				
湿 潤 密 度 ρ _t	g/cm ³				
平 均 含 水 比 w	%				
乾 燥 密 度 ρ _d	g/cm ³				

含 水 比	容 器 NO.				
	(試料+容器)質量 m _a	g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b	g			
	容 器 質 量 m _c	g			
	w	%			
含 水 比	容 器 NO.				
	(試料+容器)質量 m _a	g			
	(炉乾燥試料+容器)質量 m _b	g			
	容 器 質 量 m _c	g			
	w	%			

特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は底板を含む。

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1+w/100} \quad w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

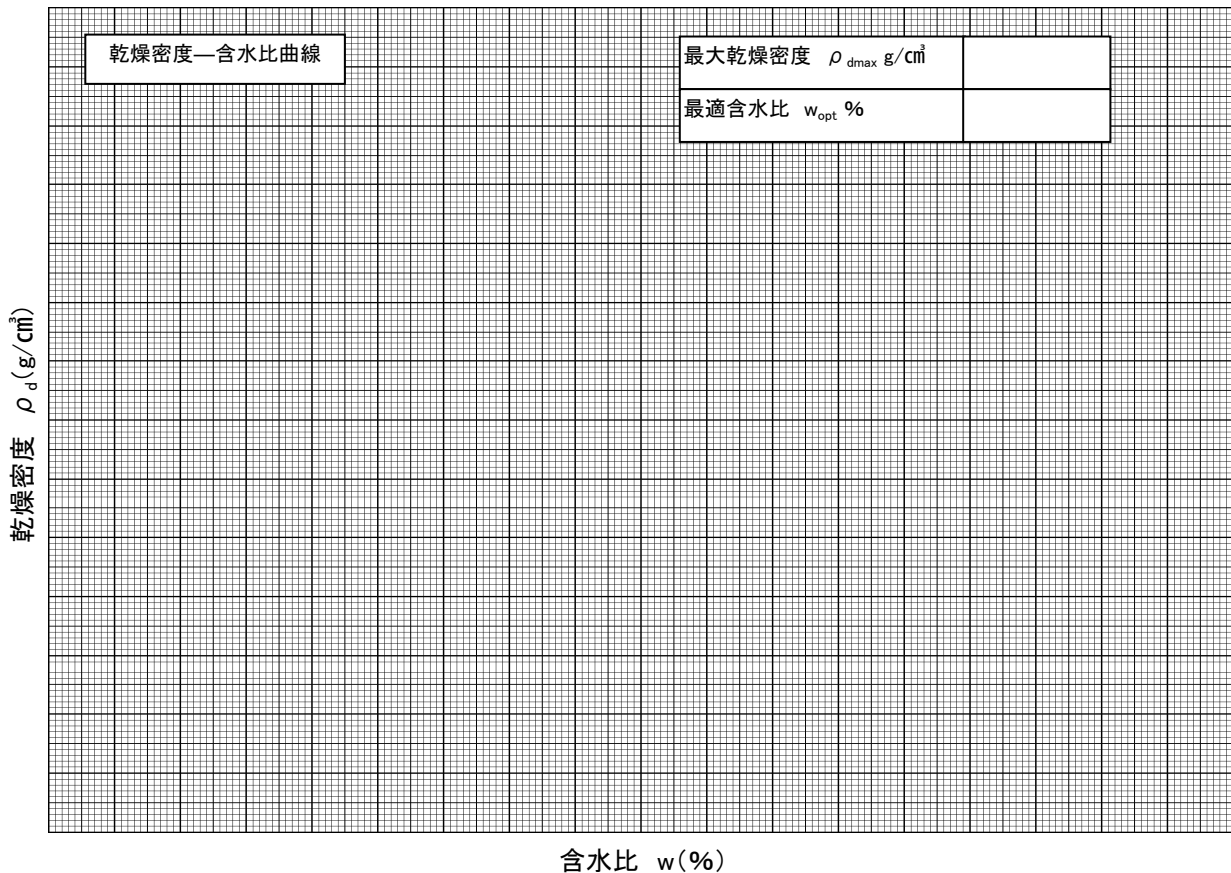
(社)地盤工学会規格準用

突固めによる土の締固め試験(締固め特性)
(JIS A 1210、JGS 0711)

総 監 督	括 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 _____
 工種名 _____ 試料採取地点 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 方 法		土 質 名 称						
試料の準備方法	乾燥法、湿潤法	ランマー質量 kg	土粒子の密度 ρ_s g/cm ³					
試料の使用方法	繰返し法、非繰返し法	落下高さ cm	試料調製前の最大粒径 mm					
含 水 比	試料分取後 w_0 %	突固め回数 回/層	モールド 内径 cm 高さ ¹⁾ cm					
	乾燥処理後 w_1 %	突固め層数 層						
測定 NO.	1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 w %								
乾燥密度 ρ_d g/cm ³								



特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。

ゼロ空気間隙曲線の計算式

$$\rho_{dsat} = \frac{\rho_w}{\rho_w/\rho_s + w/100}$$

(アスファルト関係)

様式 38

アスファルト試験成績一覧表

総 監 督	括 弧 内 の 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

分 類			
用 途			
製 造 会 社			
密 度 (25°C/25°C)	規格	規格	規格
軟 化 点 °C	規格	規格	規格
針 入 度	(0°C. 200g. 60秒)	※	
	(25. 100. 5)	規格	規格
	(46. 50. 5)	※	
伸 度	(25°C)cm	※	
	(15)cm	規格	規格
	(10)cm	※	
	(5)cm	※	
薄膜加熱重量変化 %	規格	規格	規格
薄膜加熱後の針入度 %	規格	規格	規格
蒸発後の針入度比 %	規格	規格	規格
三塩化エタン可溶分 %	規格	規格	規格
引 火 点 °C	規格	規格	規格

※は分類につき3,000ton以上使用するものに行う。
アスファルトメーカーが行った場合は日本道路協会規格による。

試験所名 _____

アスファルトの粘度温度表

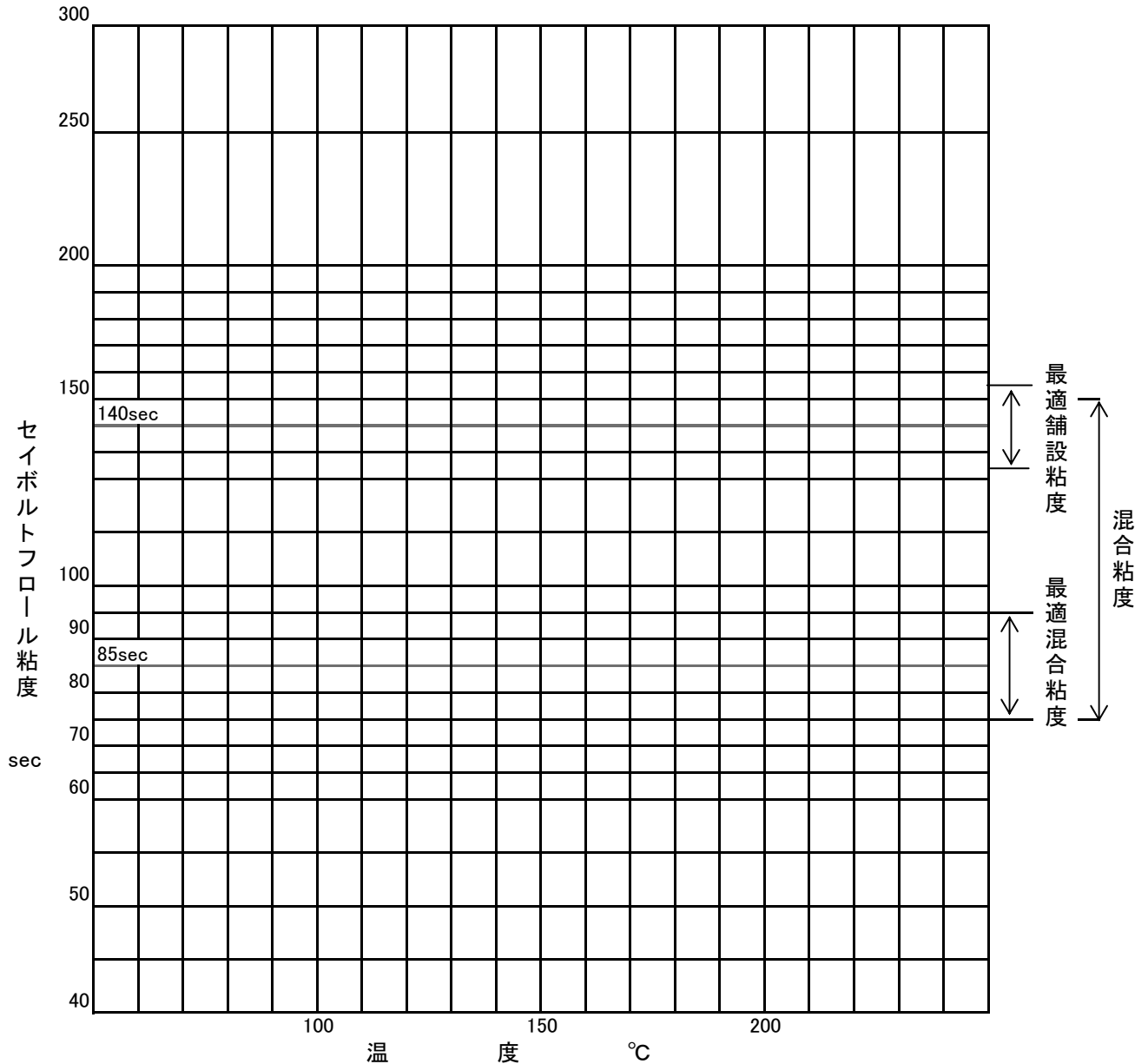
総 監 督	括 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____

請負会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____ 印



	記 号	種 類	加 熱 温 度	混 合 温 度	舗 設 温 度
最適温度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
現場 管 管 度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
混 合 舗 設 間 温 度 低 下 推 定					± °C

様式 40

粗骨材試験成績一覧表（碎石）

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	種	類		
粒 度 （ 通 過 量 ％ ）	53	mm			
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2				
	9.5				
	4.75				
	2.36				
密	度				
単位体積質量（標準）kg/m ³					
"（軽装）kg/m ³					
安 定 性 %					
吸 水 率 %					
す り へ り 減 量 %					
洗い試験で失われる量 %					
軟 石 量 %					
細長、扁平（質量）%					
"（箇 数）%					
総 試 料 質 量 kg					
アルカリシリカ反応 試験（JIS A 5308）	試験結果				
	試験方法				
試 験 年 月 日					
試 験 機 関 名					

様式 41

細骨材試験成績一覧表（砂）

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

種	類				
用	途				
産	地	河	川	名	
"	市	郡	町	村	
生	産	会	社		
粒 度 （ 通 過 量 ％ ）	4.75	mm			
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
	F・M				
密	度				
単	位	体	積	質	量（標準）kg/m ³
"		（	軽	装）	kg/m ³
安	定	性	％		
吸	水	率	％		
洗	い	試	験	で	失
粒	形	判	定	実	績
総	試	料	質	量	kg
アルカリシリカ反応	試験結果				
試験（JIS A 5308）	試験方法				
試	験	年	月	日	
試	験	機	関	名	
備 考					

様式 42

石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	の	種	類	
粒 度 (通 過 量 %)	9.5	mm			
	4.75				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m ³					
" (軽装) kg/m ³					
安	定	性	①	%	
吸	水	率	②	%	
す	り	へ	り	減	量
③	%				
0.075通過分のP. I.		④			
加熱変質 200 °C		⑤			
フ		ロ	-	試	験
⑥	%				
浸	水	膨	張	⑦	%
は	く	離	試	験	⑧
⑧	%				
総		試	料	質	量
kg					
試	験	年	月	日	

注 ①～③はスクリーニングスのみとする。

④～⑧は原石が石灰岩以外の石粉及び合成した場合の0.075通過分の1割以上がスクリーニングス0.075通過分で占める場合のスクリーニングスの0.15通過分について行う。

⑤は200°C ⑥はセメントモルタル用フローテーブルで15回落下200mmの時の石粉に対する水の重量比

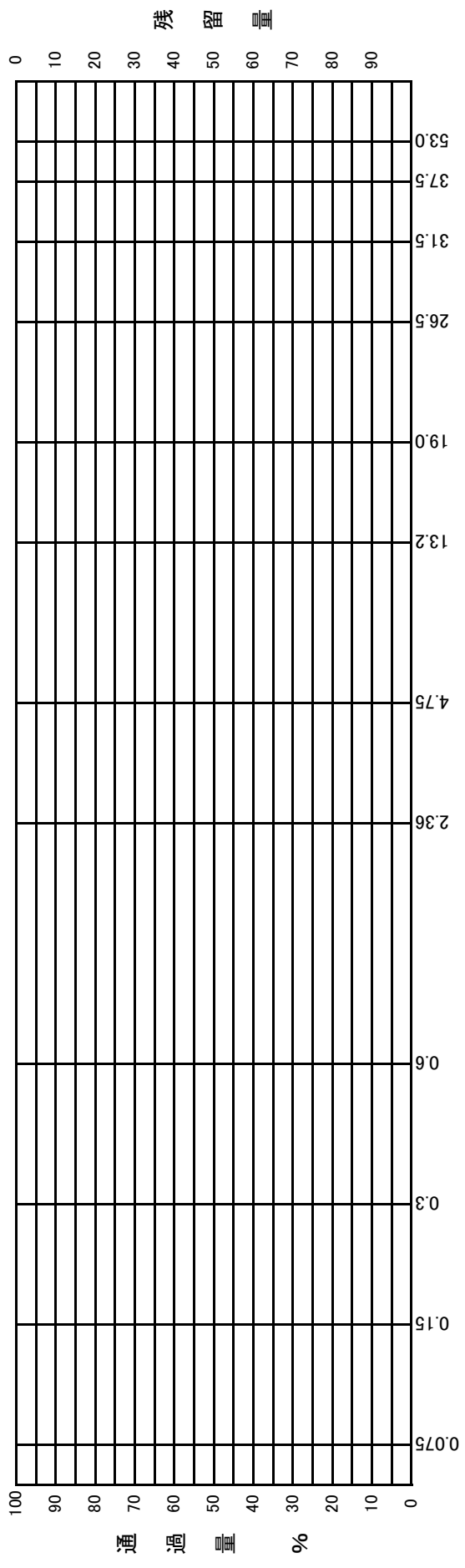
様式 43

骨材粒度曲線表(アスファルト)

総監	括監督員	監督員	主技術者	任者

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____ 請負会社名 _____ 測定者 _____ 印 _____
 工種名 _____



粒径 mm

①	④	⑦
②	⑤	⑧
③	⑥	例
種類、産、用途		

合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例

総 監 督	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者

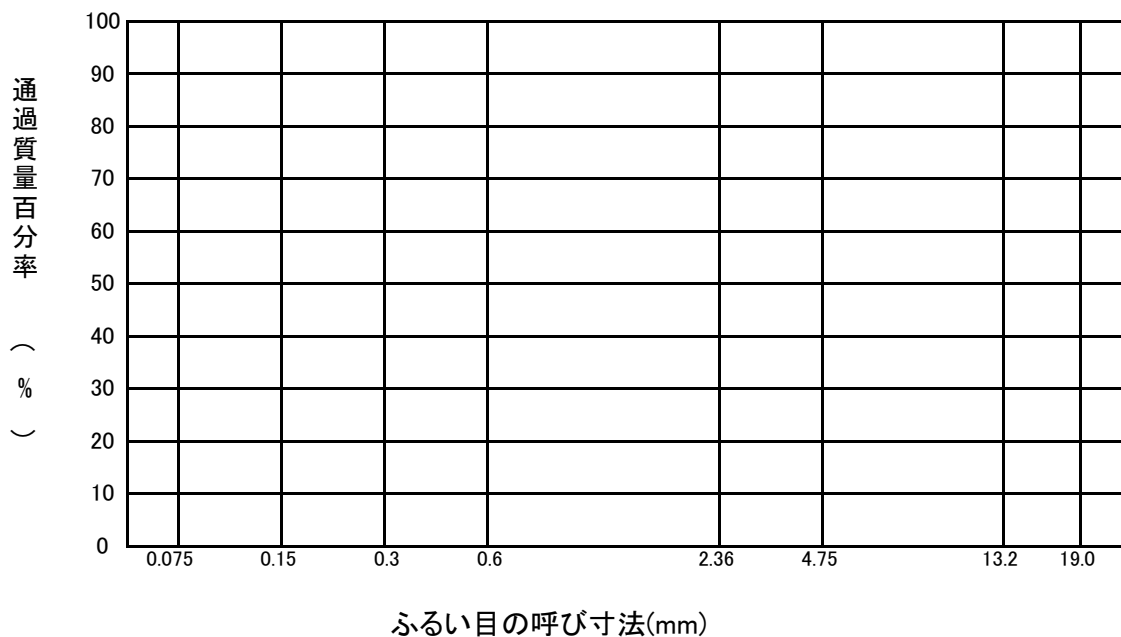
工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果

ふるいの呼び寸法 (mm)	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.

2. 使用予定骨材の配合百分率の決定



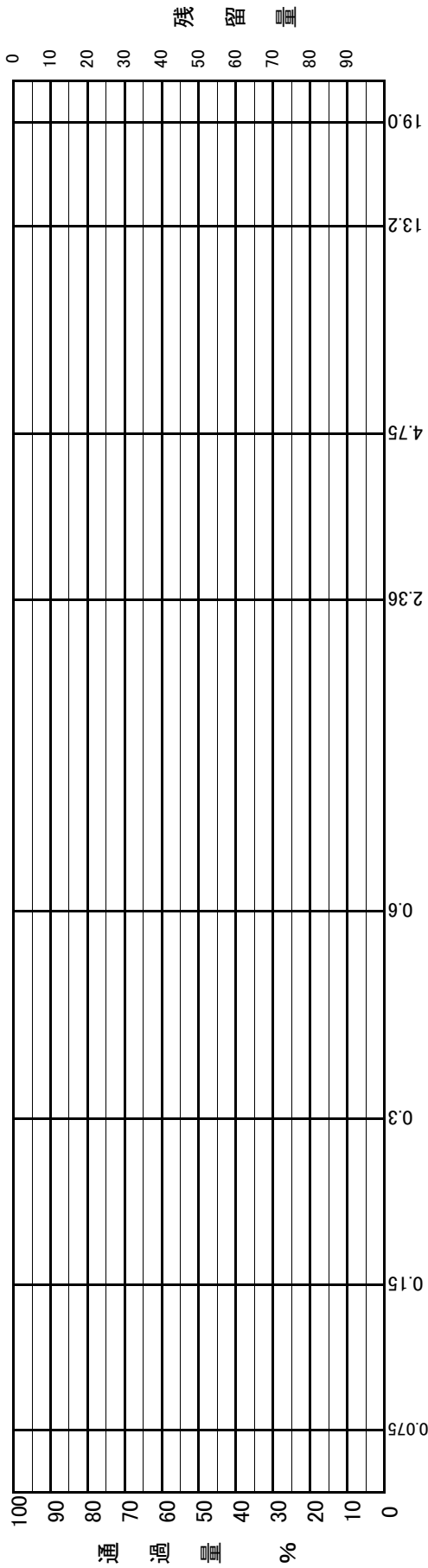
様式 45

骨材の推定変動範囲(細骨材及びスクリーニングス)

総監督	監督員	主技術者	任者

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____
 工種名 _____
 請負会社名 _____
 測定者 _____ 印



凡例		粒径 mm	
①		③	
②		④	

様式 46

骨材配合率の密度補正

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

							(記号) ()	(合材種別)
骨 材 種 類								計
配 合 率 a								100
密 度 b								-
a × b								(c)
補 正 配 合 率 $\frac{a \times b}{c} \times 100$								100

様式 47

骨材配合率及び合成粒度（室内試験）

総監督員	監督員	主技術者

試験日 平成 年 月 日

請負会社名 _____ 測定者 _____ 印 _____
 工事名 _____
 工事種名 _____

骨材種類 配合率 (比重補正)	(記号) (合材種別)		合 成 度 Σ (X配合率)	指定粒度範囲
	原粒度	X 配合率		
通過量	原粒度	X 配合率		
53 mm				
37.5				
31.5				
26.5				
19				
13.2				
4.75				
2.36				
0.6				
0.3				
0.15				
0.075				

様式 48

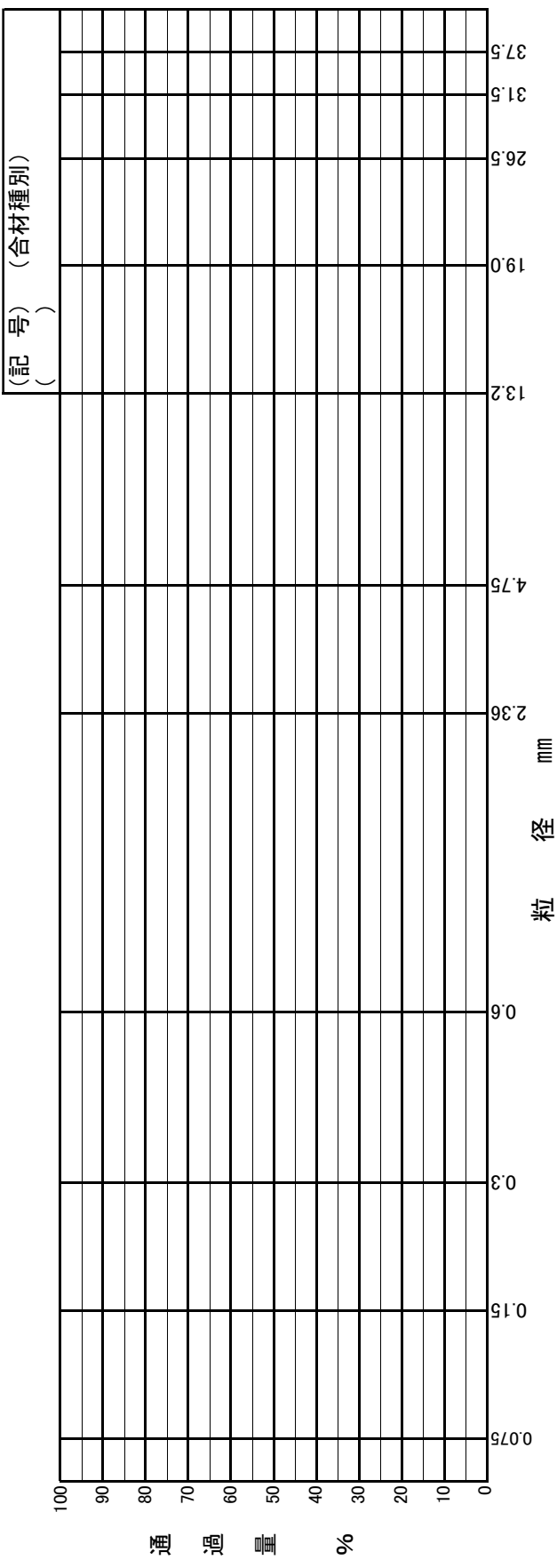
合成粒度曲線(室内試験)

総監督	監督員	主技術者	任者

試験日 平成 年 月 日

請負会社名 _____

測定者 _____ 印



—	合成粒度
- - -	指定範囲

様式 49

試験配合表（アスファルト量別）

総監	括督員	監督員	主技術者

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____
 工種名 _____

請負会社名 _____ 印
 測定者 _____

(アスファルト針入度)

配合区分	アスファルト量%	粗骨材%		細骨材%		石粉 %	合計 %	摘要
A								
B								
C								
D								
E								
F								

・配合区分はアスファルト量0.5%又は0.3%毎に区分すること

アスファルト混合物の安定度試験
(マーシャル式・理論最大密度)

総 監 督	括 弧 内 の 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 日	平成 年 月 日 曜 天候
試 験 日 の 状 態	室温 (°C)
	湿度 (%)
混 合 物 の 種 類	水温 (°C)

理論最大密度の計算

骨材の種類	産地名	① 配合比 (%)	② 各骨材の比重	③ 係数	
				①	②

係数の和=④=

乾燥骨材の比重= $\frac{100}{④}$ =

⑤ アスファルト 混合率 (%)	⑥ アスファルトの 比 重	⑦ $\frac{⑤}{⑥}$	⑧ $\frac{④(100-⑤)}{100}$	⑨ ⑦+⑧	⑩ 理論最大密度 $\frac{100}{⑨}$

考 察

.....

.....

.....

.....

.....

.....

様式 50-2

アスファルト混合物の安定度試験(マシーナル式)

総監督	括弧監督	監督	主技術者

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____ 請負会社名 _____ 印
 工種名 _____ 測定者 _____

突固め回数		アスファルトの加熱温度(°C)		骨材の加熱温度(°C)		混合温度(°C)		締固め温度(°C)						
試験の温度条件														
マシーナル安定度試験結果														
供試体番号	アスファルト混合率(%)	厚さ(cm)	質量(g)			容積(cm³)	密度(g/cm³)		アスファルト容積率(%)	空げき率(%)	飽和度(%)	安定度(kN)		フロー値(1/100cm)
			空中	表乾	水中		実測	理論				ゲージの読み	実測値	
①	②	③	④	④'	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
		1				④-⑤ または ④'-⑤'	④ ⑥		② x ⑦ アスファルト の比重	100- 100	⑦ ⑧	⑨ ⑨+⑩		
		2												
		3												
		4												
		平均												

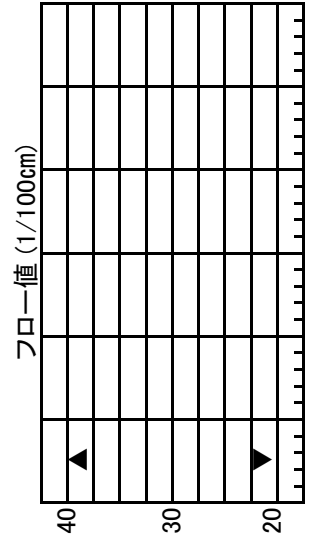
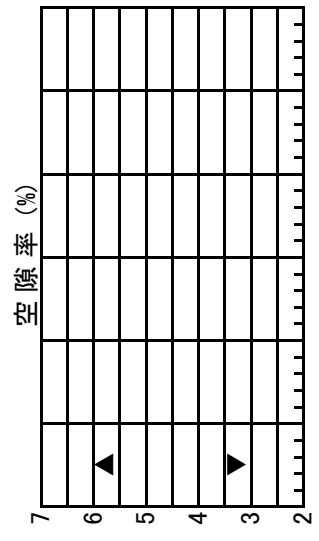
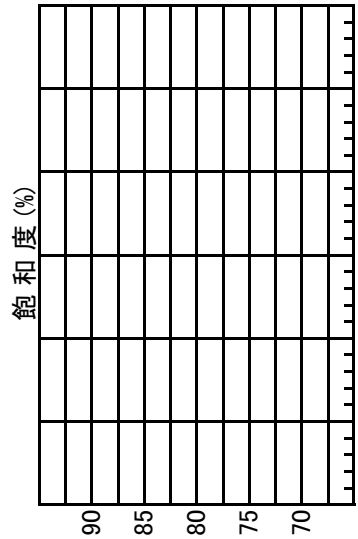
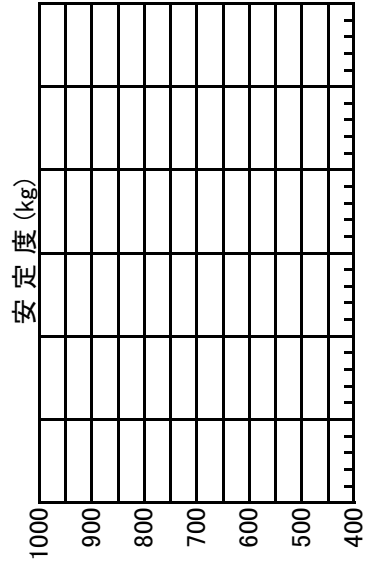
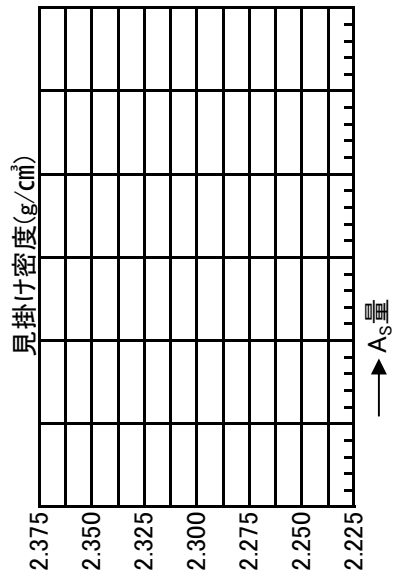
様式 51

試験結果図表

総監督	括監督員	監督員	主任技術者

(記号)
()
(合材種別)

工事名 _____ 請負会社名 _____ 印
 工種名 _____ 測定者 _____



注) : 上記の基準値の線は密粒度の1例を示しているのので、合材種類が異なる場合は、「アスファルト舗装要綱」により適宜置き換えること。

マーシャル試験による基準アスファルト量

総 監 督	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者


工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

(記号) (合材種別)
()

安定度										
フロ－値										
空隙率										
飽和度										
アスファルト量	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	%		
許容範囲										

注：1. それぞれの範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付記する。

許容範囲は4項をすべて満足する範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付す。

2. 上表の基準値は、密粒度の1例、種別が異なる場合は「アスファルト舗装要綱」による。

基準アスファルト量A

許容範囲の最大値 ①	%
〃 最小値 ②	%
A = [$\frac{①+②}{2}$]	%

注：アスファルト混合物の一般的な配合設計では、所要の性状を満足し切れない特殊条件のある場合は、現地の実情、過去の実績を勘案して①～Aの範囲で適宜決めること。
なお、「特殊条件」とはアスファルト舗装要綱による「特殊条件」のことである。

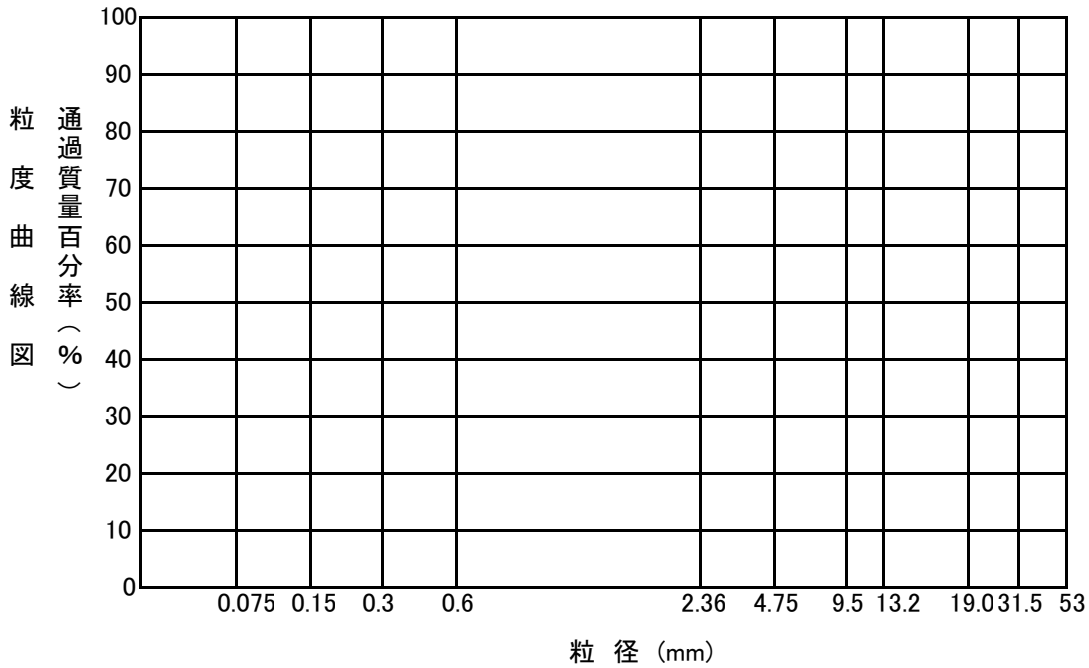
フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工 事 名 _____ 請負会社名 _____
 工 種 名 _____ 測 定 者 _____ 印 _____

試験日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 午前 _____ 時 _____ 分
 試料採取時刻 午後 _____ 時 _____ 分
 骨材の産地又は製造会社名 _____

骨材の種類 通過ふるい (配合率)	合成 粒度										
	0.075	0.15	0.3	0.6	2.36	4.75	9.5	13.2	19.0	31.5	53
各 フル イ 目 の 通 過 質 量 百 分 率 及 び 配 合 率 %	53										
	37.5										
	31.5										
	19.0										
	13.2										
	9.5										
	4.75										
	2.36										
	0.6										
	0.3										
	0.15										
	0.075										
	31.5										
	19.0										
	13.2										
	9.5										
	4.75										
	2.36										
	0.6										
	0.3										
	0.15										
	0.075										



様式54

粗骨材のすりへり試験
(JIS A 1121)

総 監 督 員	括 弧 内 監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候						
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)	乾燥温度 (°C)			
試料							
とどまるふるい (mm)	通るふるい (mm)	各群の質量 (g)	各群の質量百分率 (%)	粒度区分	球の数	回転数	① 試験前の試料の質量 (g)
	2.5						
2.5	5						
5	10						
10	15						
15	20						
20	25						
25	40						
40	50						
50	60						
60	80						
合計			100.0				
②試験後1.7mmふるいにとどまった試料の質量 (g)							
③すりへり損失質量 ①-② (g)							
④すりへり減量 $\frac{③}{①} \times 100$ (%)							

考 察

アスファルトの抽出試験

総監督	括員	監督員	主任技術者

工事名 _____

工種名 _____ 舗装箇所 _____

試料番号 _____ 請負会社名 _____

試験日 平成 年 月 日 測定者 _____ 印 _____

アスファルト抽出試験結果 (焼却法)				(加圧濾過法)			
採取時		採取時		採取時		採取時	
試験		試験		試験		試験	
抽出前の試料の質量 g	①	抽出液全容積 cc	⑦	加圧前の口紙の質量 g	⑦		
抽出前の口紙の質量 g	②	焼却前の蒸発皿の質量 g	⑧	加圧後の残留物質量 g	⑧		
抽出骨材質量 g	③	焼却後の蒸発皿の質量 g	⑨	加圧後の口紙の質量 g	⑨		
抽出後の口紙の質量 g	④	石粉の質量 g	⑩	口紙付着石粉質量 g	⑩		
口紙付着石粉の質量 g	⑤	抽出液中の石粉の質量 g	⑪	抽出液中の石粉質量 g	⑪		
抽出全骨材質量 g	⑥						
全骨材質量 g	⑫						
アスファルト量 g	⑬						
アスファルト混合率 %	⑭						
備考							

抽出残留物(骨材)の粒度分布

抽出残留物のふるい分け結果

採取時								
試験	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率 %	累加残留百分率 %	累加通過百分率 %	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率 %	累加残留百分率 %	累加通過百分率 %
ふるい目 (mm)								
53								
31.5								
19.0								
13.2								
4.75								
2.36								
0.6								
0.3								
0.15								
0.075								
0.075以下								

路面の平坦性試験表（標準偏差）

総監督員	括弧監督員	主任技術者

工事名		測定車線	
		測定器の種類	
施工地名	市 町 郡 村	測定年月日	年 月 日
請負会社名		測定者	印

標準偏差の計算	$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 + \dots + R_n}{n}$ $\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$	d ₂ の値	
		グループの大きさ	d ₂
		6	2.53
		7	2.70
		8	2.85
		9	2.97
	10	3.08	

グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)

- 注) 1. 測定値を作成したのち本表で標準偏差を求める。
 2. 測定方法は「アスファルト舗装要綱」による。

様式57

プルーフローリング試験

総 監 督 員	括 弧 員	監 督 員	主 任 技 術 者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

項目	事項				備考
天候		測定面の含水状況			
試験区間	No.	~No.			
載荷車	型式		接地圧		
載荷状況	予備載荷回数	回	本載荷速度	km/h	

試験結果

視察展開図	<p>_____</p> <p>No.○ No.○ No.○ No.○ No.○ No.○ No.○</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>No.○ No.○ No.○ No.○ No.○ No.○ No.○</p> <p>_____</p>
	<p>_____</p>
視察記事	<p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
異常箇所の処置	<p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

(品質管理関係)

様式 58-1

X - R 管理データシート

総監督	括員	監督員	主任者

工事名 _____ 請負会社名 _____
 工種名(名称) _____ 測定者 _____ 印 _____
 項目名(品質特性) _____ 作成者 _____ 印 _____

設計基準値 A	規格値 限界		測定 単位	日標準量
	上限	下限		資料
	+	-		大きさ
				間隔
				作業機械名

月日	測点	組番 の号	測定値			計 ΣX	平均値 X̄	範囲 R			
			X ₁	X ₂	X ₃						
		1									
		2									
		3									
		4						平均	X̄	R̄	
		5						累計			
		小計						小計			
		6									
		7									
		8									
		9						平均	X̄	R̄	
		10						累計			
		小計						小計			
		11									
		12									
		13									
		14									
		15									
		16									
		17									
		18									
		19						平均	X̄	R̄	
		20						累計			
		小計						小計			

(注)
 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記事

記入要領
 1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。
 2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
 3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
 4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d ₂	A ₂	D ₄
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

\bar{X} - R 管理データシート

総監督	括監督員	監督員	主任技術者

工事名 _____ 請負会社名 _____

工種名(名称) _____ 測定者 _____ 印 _____

項目名(品質特性) _____ 作成者 _____ 印 _____

設計基準値 A	規格値限界		測定単位
	上限	下限	
	+	-	

日標準量	
資料	大きさ
	間隔
作業機械名	

月日	測点	組番号	測定値			計 ΣX	平均値 \bar{X}	範囲 R		
			X_1	X_2	X_3				平均	\bar{X}
								平均	\bar{X}	\bar{R}
								累計		
小計								小計		

特記 _____

(注) 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記入要領	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。	n	d ₂	A ₂	D ₄
	2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。	2	1.13	1.88	3.27
	3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。	3	1.69	1.02	2.57
	4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。	4	2.06	0.73	2.28
		5	2.33	0.58	2.11

様式 58-3

X - R 管理図

総監督員	監督員	主任技術者

設計基準値	工事標準		事業所名	名
	日	量		
品質特性	規格値限界	上限値 下限値	期間	年月日
測定単位			請負会社名	年月日
測定方法	試料	大きさ	現場代理人	印
作業機械名		間隔	測定者	印

- X			
R			

組の番号	
記事	

注) 1.管理図は、別紙X-R管理データシートから記入する。
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm 管理データシート

総 監 督 員	括 弧 内 の 監 督 員	主 任 技 術 者

名 称	工 事 名	測 定 期 間	自	年 月 日
品 質 ・ 特 性	事 業 所 名	測 定 期 間	至	年 月 日
測 定 単 位	日 標 準 量	請 負 会 社 名		
規 格 限 界	上 限 値	試 料 大 小	現 場 代 理 人 印	
	下 限 値		測 定 者 印	
設 計 基 準 値	作 業 機 械 名	作 成 者	印	

月 日	試 験 番 号	測 定 値				計 算 値	平 均 値 \bar{X}	移 動 範 囲 R_s	測 定 値 内 圍 の 範 囲 R_m	計 算 式								
		a	b	c	d					$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$	$D_4 \cdot \bar{R}_s =$	$D_4 \cdot \bar{R}_m =$	平均 $\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$			
	1																	
	2																	
	3																	
	4																	
	5																	
	小計																	
	6																	
	7																	
	8																	
	小計																	
	9																	
	10																	
	11																	
	12																	
	13																	
	小計																	
	14																	
	15																	
	16																	
	17																	
	18																	
	19																	
	20																	
小計																		
記 事																		

- 注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値 \bar{x} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

X - Rs - Rm 管理データシート の 2

総 監 督	括 員 監 督 員	主 任 技 術 者

月日	試験 番号	測 定 値 計				平 均 値 X	移 動 範 囲 Rs	測 定 値 内 の 範 囲 Rm																					
		a	b	c	d					Σ																			
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																				
									<table border="1"> <tr> <td> </td> <td>X</td> <td>Rs</td> <td>Rm</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>$\bar{X} =$</td> <td>$\bar{R}_s =$</td> <td>$\bar{R}_m =$</td> </tr> <tr> <td>累計</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>		X	Rs	Rm	平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	累計											
	X	Rs	Rm																										
平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$																										
累計																													
	小計								<table border="1"> <tr> <td>小計</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	小計																			
小計																													
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																				
									<table border="1"> <tr> <td> </td> <td>X</td> <td>Rs</td> <td>Rm</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>$\bar{X} =$</td> <td>$\bar{R}_s =$</td> <td>$\bar{R}_m =$</td> </tr> <tr> <td>累計</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>		X	Rs	Rm	平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	累計											
	X	Rs	Rm																										
平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$																										
累計																													
	小計								<table border="1"> <tr> <td>小計</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	小計																			
小計																													
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																				
									<table border="1"> <tr> <td> </td> <td>X</td> <td>Rs</td> <td>Rm</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>$\bar{X} =$</td> <td>$\bar{R}_s =$</td> <td>$\bar{R}_m =$</td> </tr> <tr> <td>累計</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>		X	Rs	Rm	平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	累計											
	X	Rs	Rm																										
平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$																										
累計																													
	小計								<table border="1"> <tr> <td>小計</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	小計																			
小計																													
									<table border="1"> <tr> <td>n</td> <td>d₃₁</td> <td>D₄</td> <td>E₃</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1.13</td> <td>3.27</td> <td>2.66</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1.69</td> <td>2.57</td> <td>1.77</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2.06</td> <td>2.28</td> <td>1.46</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2.33</td> <td>2.11</td> <td>1.29</td> </tr> </table>	n	d ₃₁	D ₄	E ₃	2	1.13	3.27	2.66	3	1.69	2.57	1.77	4	2.06	2.28	1.46	5	2.33	2.11	1.29
n	d ₃₁	D ₄	E ₃																										
2	1.13	3.27	2.66																										
3	1.69	2.57	1.77																										
4	2.06	2.28	1.46																										
5	2.33	2.11	1.29																										

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。

----- 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値 \bar{x} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式 60

総 監 督 員	監 督 員	主 任 技 術 者

X - Rs - Rm 管理図

設 計 基 準 値	工 事 名	事 業 所 名	標 準		期 間	年 月 日
			上 限 値	下 限 値		
名 稱	日	期	規 格 値 限 界	大 小 間 隔	自 至	年 月 日
品 質 特 性	規 格 値 限 界	請 負 会 社 名	規 格 値 限 界	大 小 間 隔	現 場 代 理 人	年 月 日
測 定 単 位	試 料	測 定 者	規 格 値 限 界	大 小 間 隔		
測 定 方 法			規 格 値 限 界	大 小 間 隔		
作 業 機 械 名			規 格 値 限 界	大 小 間 隔		

X						
Rs						
Rm						

組 の 番 号	
記 事	

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理データシートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

様式 6 1

平成 年度

工事 工事写真

一部完成検査, 出来形検査, 中間検査

月 日	回	検査種別	検 査 員 職・氏名・印	総括監督員 職・氏名・印	監 督 員 職・氏名・印	現場代理人 氏 名 ・ 印
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						

完 成 検 査

月 日	検 査 員 職・氏 名・印	総 括 監 督 員 職・氏 名・印	監 督 員 職・氏 名・印	現場代理人 氏 名・印
月 日				

支庁・課名 _____

請負者名 _____

- 注) 1. 工事写真は、本表紙様式により全工種を一括綴りとし、インディックス等により
検査毎に仕分けし、更に工種毎に細仕分けするものとする。
2. 工事写真は、検査のつど監督職員に提出するものとする。
3. 工種は、施工管理基準の「工種」の項目とする。

